平成25・26年度　中央区教育委員会　研究奨励校・研究奨励園　2年次報告書

豊かな心と健やかな体の育成

平成26年度　東京都小学校体育研究会
研究推薦校
平成23～25年度　東京都教育委員会
スポーツ教育推進校

平成26年度　東京都教育委員会
オリンピック教育推進校（園）

研究のねらい（幼・小の教育課題の解決のために）

小学校

－自分やみんなを大切にする児童の育成を目指して－

心と体の健康教育を通して、自らの心身の健康・体力について関心を高め、自己管理能力を育成したり、全ての教育活動の中で、主体性や関わる力を育成したりすることで主題に迫る。

幼稚園

－体を動かして遊ぶことが大好きな子どもの育成－

幼児が体を動かす楽しさを十分に味わい、様々なことにも意欲的に関わろうとする気持ちがもてるように援助し、環境を工夫することで主題に迫る。

研究の内容

小学校

- 小集団活動、小グループ活動による学び合い学習の充実・定着
  （主体性・関わる力の育成、言語活動の充実）
- 体育・保健・給食を中心とした心と体の健康教育の充実（各教科等の実践事例）

幼稚園

- 幼児期からの運動遊び・運動プログラムの作成（幼小の接続の在り方）
- 体を動かし、関わる機会の保障と質の向上
- 全ての教育活動の中で主体性や関わる力（その基礎）を重視し、豊かな心を育成する
- 多様な動きを引き出すための3つの視点に立った援助と環境の工夫
- 限られた環境での、活動の取り入れ方の工夫

平成26年10月16日

中央区立久松小学校　中央区立久松幼稚園

あ い さ つ

中央区教育委員会教育長　　齊藤　進

子どもが「生きる力」を身に付けるためには、学力だけではなく心と体の育成も大切です。こうした中、久松小学校・幼稚園では、平成25年度から2年間、中央区教育委員会研究奨励校・園として「豊かな心と健やかな体の育成」を研究主題として熱心に研究に取り組まれてきました。幼小9年間の発達段階に応じて、心と体の双方をバランスよく育成することを目指した本校・本園の実践は、意義深いものであり、その成果が多くの学校・幼稚園で活用されることを願っております。

酒井 寛昭 校園長をはじめとする教職員の熱意と努力に対し深く敬意を表しますとともに、本校・本園の研究に御指導を賜りましたすべての皆様に、心より感謝を申し上げあいさつといたします。

目　次

○ 久松の教育（共通の短期目　標・研究主題の背景）… 2
○ 久松の研究主題　豊かな心　と健やかな体の育成…… 8
○ 幼稚園……10
○ 小学校……20
○ まとめ……42

あ い さ つ

校園長　酒井　寛昭

現在、知・徳・体の調和、とりわけ「豊かな心と健やかな体の育成」が重要課題となっています。本園・本校でも様々な調査から「豊かな心と健やかな体の育成」が課題として浮かび上がりました。従来の教育実践を改めて見つめ直し、明日に向け新たな「久松の教育の創造」に取り組み始めました。幼稚園では、体を動かす多様な遊び、小学校では、小集団活動の展開を研究の柱としました。今、少し研究実践のめざすべき方向が見えてきました。皆様の御批正をいただきたくお願い申し上げます。終わりに御指導いただきました講師の先生方、及び中央区教育委員会はじめ関係の皆様に心より感謝申し上げます。

久松の教育
共通の短期目標・研究主題の背景

教育目標

たくましい子
◎心身ともに健康で
たくましい子を育てる。

進んでやる子
◎素直に表現し、自ら考え
進んで行動できる子を育てる。

心豊かな子
◎思いやりの心をもち、
心豊かな子を育てる。

中・長期目標

生きる力の基礎を培う幼稚園
- 信頼関係を基盤・主体的な生活
- 基本的生活習慣を身に付ける
- 豊かな人間関係の基礎を培う幼稚園

明るく笑顔あふれる幼稚園
- 3年間の見通しとその後の見通しをもつ
- 笑顔あふれる組織的な幼稚園
- 小学校の円滑な接続

信頼される幼稚園
- 保護者・地域と手を携えて進める
- よりよい園風を創る幼稚園
- 安心して何でも見える、言える幼稚園

短期目標

豊かな心と健やかな体・生きる力の育成

体を動かして遊ぶことが大好きな子どもの育成
（一貫性・連続性のある久松の教育を推進）

●自分から進んで健康で豊かな生活を送れるようにするために、必要な習慣や態度を身に付ける。
（道徳性の芽生え、規範意識、自立心の芽生え）

あいさつ

食後のはみがき

●学級・学年を超えた兄弟姉妹のような関わりがもてるようにするために、他学年との交流活動を充実する。
（多様な関わり、思考力の芽生え、協調性、言葉による伝え合い・認め合い）

一緒に遊ぶ

一緒にお弁当を食べる

重点
●たくましい心と体の育成のために、身体全体を動かして多様な遊びをすることを中心にする。
（豊かな心と健やかな体、協調性、道徳性の芽生え、言葉による伝え合い）

ドッジボール（年長児）

持っててあげるよ

重点
●幼児の生活や心情を豊かにするために栽培活動、食育、伝統行事を積極的に取り入れる。
（豊かな心と健やかな体、自然との関わり、豊かな感性と表現）

かめの水をとりかえて

水やり

子どもたちを取り　巻く環境と状況

◎子どもを取り巻く環境の変化・運動経験の不足
・昔と比べて体格は向上、体力は依然低迷傾向
・遊びに必要な「3つの間（仲間・空間・時間）」が減少、特に、屋外遊びをする機会が減少
・屋内での遊びが多くなり、一人遊びが増加
・運動をする子と運動をしない子の間の体力差が拡大

◎体験不足による感情の未熟・未発達
・遊びを通して社会性などの様々な能力を養う機会減少、人間関係を築く力にも影響
・「他者の視点に立ってその感情や考えを想像し共感する力」や「他者との間に親密な関係をつくる力」が未成熟

◎規範意識の基礎となる自己肯定感の未熟・未発達
・「感謝されてうれしかった」「自分は頼りにされている」「自分も誰かの役に立っている」など他者と交流することで得られる「他人と関わりたい」という感情が未成熟

幼・小共通の課題

新体力テスト・活　動量調査などから
２極化(運動量　・活動量・体力)
アンケート（児童・保　護者・教職員等）から
２極化(思いやり・　関わる力・主体性)

幼稚園の課題から

◎発達に即した体を動かす遊びの系統性
◎体を動かす力・関わる力の基礎

遊び・運動遊びを通して

小学校の課題から

◎主体性、関わる力、健康・体力の育成
◎学び方の系統性、学び合いの充実
◎自分・相手を大切に

・小集団活動を通して
・健康教育の充実を通して

学校・幼稚園の課題を受け、豊かな心と健やかな体の育成を重点とする。
さらに、これを受け道徳・特別活動の他、人権教育・健康教育・国際教育などの多くの教育課題について全体計画を見直し、重点を明確にした。

教育目標

強　く
心身ともに健康
向上心
自　立
強い意志
自　律
主体性

正しく
正しい生き方
善悪の判断と行動のできる主体性
思考力・表現力

豊かに
豊かな心情
互いの尊重
共生社会の担い手
創造性
思いやりの心

中・長期目標

楽しさのある学校
- わかる授業
- 温かい人間関係
- 一人一人の存在感
- 自己肯定感

厳しさのある学校
- 基本的な生活習慣
- 礼　儀
- 礼　節
- 規　律
- 相手の立場
- じっくり考える
- 規範意識
- 自分に厳しく

信頼感のある学校
- 校　風
- 互いの理解
- 一人一人を大切にする
- 開かれた学校
- 責任感
- 心身の健康

短期目標

豊かな心と健やかな体・生きる力の育成

知・徳・体のバランスと調和を重視し、特に豊かな心と健やかな体を育てる
〈主体性・関わる力・健康と体力〉

重点
違いを認め、互いに尊重し合う**温かい人間関係を育む**ため、**学び合う集団づくり・小集団活動**を推進する。（主体性・関わる力）

小集団活動の推進・学び合い

異年齢活動・交流活動の推進

重点
自らの健康・体力についての関心を高め、**自己管理能力を育成**するため、体育・保健学習・食育を重視した**健康教育を推進**する。（健康・体力）

体育・保健学習・食育の充実

仲間とともに体を動かす機会（ロング放課後遊び）ときっかけづくり

基本的な生活習慣、ルールやマナーなどの**規範意識の定着**を図るため、きめ細かな指導を継続する。（主体性・関わる力）

5分前行動の徹底

心のこもった「返事・あいさつ・ありがとう」

物事を正しく見つめる力、**自ら課題を解決し実行できる力**を育てるため、**体験や学び合い**を重視する。（主体性・関わる力）

自己解決と学び合いのある授業の充実

一人一人を大切にした個に応じた指導の充実

幼稚園教育目標達成のための特色ある教育活動

幼稚園の研究副主題

体を動かして遊ぶことが大好きな子どもの育成のために

重点

多様な運動遊びの推進

体を動かすことが大好きな子ども（健康・体力・関わる力）

スクーター・バイクに乗って

水遊び

小学校のプールに挑戦

忍者の修行……ボールを転がす・山から転がる・屋根渡りの修行・川渡りの修行

鬼ごっこ……宝取り・むっくりくまさん・助け鬼

個々に挑戦……鉄棒・登り棒・短縄とび・長縄とび

多様な運動遊びを計画的に実施・環境の工夫

交流活動の展開

学級・学年を超えて関わる力

年少児へのお世話（4月）

年中・年長児と一緒に

クリーンデー

お別れ遠足（2月）

他園の幼児と関わる力

保育園との交流

小学生と関わる力

1年生の授業見学・交流給食

3年生と一緒に遊んだり、柏学園でお弁当

5年生の縁日に招待されて

多様な関わりがもてるよう多様な交流活動を実施

地域・伝統行事に親しむ（豊かな感性・表現力）

笹飾りをどうぞ

願いを書いて（七夕）

地域めぐり（お正月）

お正月遊び大会

鬼は外・福は内（節分）

地域社会や伝統行事に親しみをもてるよう計画的に実施

その他の特色ある教育活動

食育・栽培活動を通して（食への興味や関心を高める）

カレーづくり

杏ジャムを食べる

スイートポテトづくり

キヌサヤの収穫

ジャガイモの収穫

苗を植えよう

ミツバチプロジェクト

食育教室

みんなでお弁当

食への興味・関心を高めるために計画的に実施

安全教育（健康で豊かな生活）

階段は一列で

手をあげて

机の下にもぐって

マットを敷いて

車内では手すりにつかまり

地震のときには

生活安全・交通安全・災害安全を計画的に実施

小学校教育目標達成のための特色ある教育活動

小学校の研究副主題

自分やみんなを大切にする児童の育成を目指して

重点 異年齢活動・交流活動・幼小一貫の教育活動（関わる力）

登校班

交流給食（1年生・幼、兄弟姉妹学年）

1年生サポーター（6年生）

就学時健診（5年生・幼・保）

ブラスバンド（4・5・6年生）

人形劇鑑賞会（1年生・幼・保）

水泳サポーター（6年生）

ふれあいタイム（全校縦割り活動）

- 思いやりの心や共に生きる心を育てるために、幼児を含めた異年齢との交流や集団活動、体験的な活動を計画的に推進する。また、全校縦割り活動を実施する。
- 互いに尊重する態度や自己肯定感を育成するために、幼稚園と互いにプラスになる交流活動等の連携を図り、関わりを重視した活動を年間計画に位置付けて実施する。

重点 小集団活動の推進（主体性・関わる力・言語活動の充実）

小集団・小グループによる学習（全教科）

柏セカンドスクール（4年）

館山臨海学園（5年）

本栖移動教室（6年）

鎌倉遠足（6年）

校外学習・宿泊学習における活動

- 子どもたちが、自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する能力を育むために、小集団活動や体験的な活動を充実させ、個性や能力を伸長する教育を推進する。あわせて小集団活動を通じて質の高い関わり合いと言語活動の充実を図る。

重点 健康増進・体力向上（健康と体力）

夏季水泳指導・サポート教室

マイスクールスポーツ（なわとび）

トップアスリートによるスポーツ教室

休み時間の外遊び

歯の染め出し（1・3・5年）

体育学習

保健学習

食育学習

体育・保健学習・食育の充実

食育教室（5年）

お弁当づくり（5・6年）

はしづくり（4年）

食育学習（1・2年）

体育・保健学習・食育の充実

- 運動することの楽しさや、上達することの喜びを味わい、豊かでたくましい心と体を育むために、体育の授業を充実させる。また、マイスクールスポーツである「なわとび」を体育の年間指導計画に位置付けるなど計画的に実施する。
- 運動の機会や関わる機会を保障するために、時程を工夫し、ロング放課後遊びを毎週設定し、朝遊び、中・昼遊びを確実にとる。
- 健康教育推進のため、食育や保健学習を充実させる。また、トップアスリートによるスポーツ教室の実施を通して、オリンピック・パラリンピック教育を実施する。

勤労生産・奉仕活動の推進（主体性・関わる力）

勤労感謝集会

地域清掃

ユニセフ・一円玉募金

落ち葉集め

米づくり（5年生）

一人一鉢栽培（花・フェンス等）

屋上栽培

委員会活動

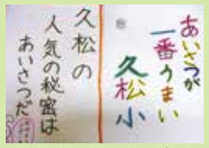
- 社会性、社会貢献の精神と実践力を育てるために、勤労感謝集会、落ち葉集め、1年生サポーター、水泳サポーター等を通した体験活動を充実させる。
- 豊かな心情や主体性を育てるために、一人一人が季節に合った植物を一人一鉢で育て、校内外の環境美化を推進する。また、屋上ビオトープを活用した環境教育を推進する。

久松らしさ【自主・自立、気品と風格】の定着（主体性）

運動会

学習や生活のきまりの徹底

卒業式



返事・あいさつ・ありがとう

音楽会

久松しぐさ（道徳授業）

席書会

- 久松らしさを受け継ぎ、「自主・自律」の精神と豊かな心に支えられた「気品と風格」を学校生活の全体を通して意識付けるために、特に朝会、入学式、卒業式等を通して厳粛な場での望ましい態度を育成する。また、「久松しぐさ」を意識し行動できるよう計画的に継続した指導を行う。

個を大切にした教育活動・体験活動の重視（主体性）

算数少人数指導（3～6年）

様々な体験活動

英語活動

夏季補習

着衣水泳（5年）

マット・跳び箱サポート教室

消防訓練（避難訓練）

そろばん教室（3・4年）

荒汐部屋稽古

音楽教室（4年）

点字体験（4年）

デイサービスセンター訪問（6年）

- 学習の基礎的・基本的な内容の確実な定着のために、少人数指導での学習を計画的に取り入れたり、朝学習の時間や放課後の時間、自主学習支援テキスト、東京ベーシック・ドリルを活用したり、夏季補習、夏季水泳サポート教室、マット・跳び箱サポート教室等を設置したりする。また、保護者・地域社会の学生等による学習サポーターを幅広く受け入れる。
- 学校と家庭が一体となって児童の健全育成にあたるため、ブラスバンド指導、わんぱく相撲や羽根つきなどに、保護者等による多様なサポーターの協力を求め、指導の充実を図る。

久松の研究主題　豊かな　心と健やかな体の育成

研究のめざ　す方向性

（健康・体力の２極化解消、思いや　り・関わる力・主体性の２極化解消）

幼稚園　副主題

「体を動かして遊ぶことが大好きな子どもの育成」

体を動かす楽しさを十分に味わい、様々なことにも意欲的に関わろうとする気持ちがもてるように援助し、環境を工夫することで主題に迫る。

３歳児

４歳児

５歳児

遊びの系統性

発達段階に応じた多様な動きの経験

- 多様な動きのある遊びを引き出すための3つの視点（イメージ・選択性・意欲）に立った援助と環境の工夫
- 限られた環境の中での、活動の取り入れ方の工夫

共　通

- 幼児期からの運動遊び･運動プログラムの作成（幼小の接続の在り方）
- 運動の機会・体を動かす機会、関わる機会の保障（充実）
- 全ての教育活動の中で主体性･関わる力（その基礎）を重視し豊かな心を育成する

小学校　副主題

「自分やみんなを大切にする児童の育成を目指して」

心と体の健康教育を通して自分の心身の健康（体力）について関心を高め、自己管理能力を育成したり、全ての教育活動の中で主体性や関わる力を育成したりすることで主題に迫る。

保健

食育

体育

小集団活動の推進を核にして

運動の機会　　関わる機会の充実

- 心と体の健康教育（体育・保健・食育を中心に）の充実による健康な生活への関心・実践力の向上
- 小集団活動、小グループ活動による学び合い学習の充実・定着（主体性・関わる力の育成、言語活動の充実）

児童一人一人が意欲的に活動し、自己肯定感を引き出すための教材の工夫（各教科等の実践事例）

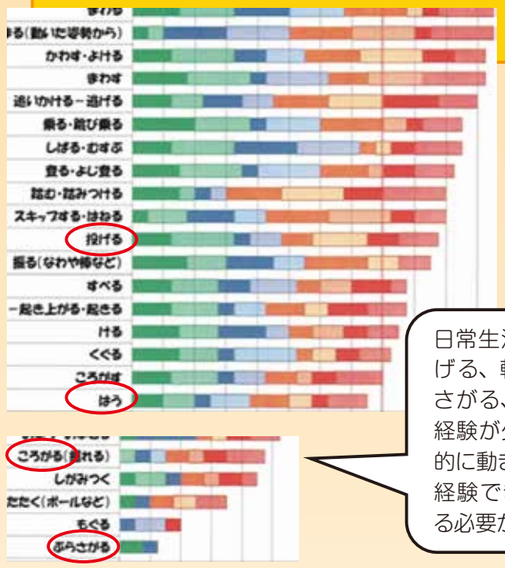
豊かな心と健や　かな体の育成

幼稚園　「体を動かして遊ぶ　ことが大好きな子どもの育成」

体を動かす心地よさ　　友達と一緒に遊ぶ楽しさ

不足している動きの把握

『運動能力測定』の結果（平成25年度）から、不足している動きを把握。



日常生活の中で、投げる、転がる、ぶらさがる、這うなどの経験が少ない。意図的に動きを取り入れ、経験できるようにする必要がある。

3つの視点からの具体的な手立て

24年度～25年度にかけ、事例検討、講師の先生からの助言により、援助のポイントを探ってきた。その中で、不足している動きを含めた多様な動きを引き出すため、大きな3つの視点があることが分かった。

多様な動きを経験　するための
遊び・活動内容の整理（　一覧表の作成）

24年度、25年度に行ってき　た遊び・活動内
容を学年ごとに整理し、経験　できる動きを共
通理解する。

多様な動きを引き出す　ために

いつ、どのような運動遊び　をするか

イメージをもって動きを　楽しめる環境

幼児にとって分かりやすく、身近なもの（動物、乗り物など）を取り入れ、イメージをもつことで、自然と体を動かしたり、楽しんで動いたりできるようにする。

動きの自由さや選択性が　保障された環境

自分なりの動きが出せる安心感や、選択できる環境があることで、のびのびと動くことができるようにする。

意欲がもてるような具　体的な目標

声掛け、友達からの刺激、教材の提示などから、目標をもてるようにし、意欲を高められるようにする。

幼児期に「主体性・関わる力の基礎」「健康・体力向上についての基礎」を培う

基本的な動きの積み重ね
→小学校へ

主体的に動く思いを伝える
→小学校へ
（小グループ・小集団）

小学校へのつながり

○幼稚園での遊びの経験を伝え、経験を生かした活動を取り入れる。

＜低学年「体つくり運動」での活動＞（例）

幼稚園で、慣れ親しんだ音楽を使用する。

幼稚園でも親しみのあるフラフープを使って…

小学校で重視している
主体性や関わる力・健康・体力

○イメージをもって多様な動きをする。

＜忍者のイメージで修行＞

幼稚園で大切にしてきたイメージ

箱の中に入るかな?

○ペアや小グループで関われる学習形態で行う。

幼稚園

活動例の吹き出し	イメージをもって動きを楽しめる環境 / 動きの自由さや選択性が保障された環境 / 意欲がもてるような具体的な目標

年少組

めざす幼児像　○いろいろな動きに興味をもつ
○走ることが楽しい

鬼遊び「おおかみさん」

期待する主な動き例
・逃げる　・追いかける

○なりきる楽しさが味わえる曲をかける。
○教師が一緒になりきって動く。
○個々の動きを認める。
○お面を身に付ける。

・一人一人が自分なりのイメージをもって動くことを楽しむ姿が見られた。

○自分で好きな役を選べるよう、お面の数を十分に用意する。
○一人一人の動き（忍者になりきる、スキップをする、オオカミになりきる等）を認める。

・安心して参加することができた。
・自分なりに動きを楽しむ姿が見られた。

○逃げ込む場所を家の形にし、事前にみんなで確認する。
○教師二人が追いかける役と逃げる役に分かれる。
○教師と一緒に活動を振り返る。

・逃げる場所を目指して走る姿が見られた。
・教師と一緒に動く楽しさを味わうことができた。

なわに親しむ

期待する主な動き例
・跳ぶ　・跳び越す
・持つ　・引っ張る

○教師が、なわを電車やヘビ、波などに見立てて声を掛けながら一緒に遊ぶ。

・イメージをして遊ぶことを楽しむ姿が見られた。

○年中児・年長児が短なわで遊ぶ姿を見て興味をもった幼児の気持ちを受け止め、好きな遊びで年少児なりになわに触れて遊べるように用意する。

・やりたいと思ったときに触れて遊び、電車ごっこ、ヘビや波に見立ててジャンプ、綱引きごっこなど、思い思いに縄に触れて遊ぶことを楽しんだ。

忍者ごっこ（ボール遊び）

期待する主な動き例
・投げる(両手、片手)　・転がす　・ボールを追う

○忍者のイメージがもてるような衣装や的(大蛇、敵の忍者、お城)を用意する。
○忍者の動きが入ったリズムを選曲する。
○教師がなりきって楽しむ姿を幼児に見せる。

・忍者になりきることを楽しむ姿が見られた。

敵忍者を倒せ！

大蛇を倒せ！

お城まで届けろ！

○自分のやり方でボールに触れる姿を認める。(両手で投げる、片手で投げる、蹴る、転がす)
○的の高さや距離を変えて、環境を構成し、幼児が自分で選択してできるようにする。

・教師が認めることで、自分なりのやり方で自信をもって取り組む姿が見られた。
・やりたい場所を選んで遊ぶ姿が見られた。

・幼児ができることを保障した場にする。
・「ここまで飛ばそう」「ここに当てたい」と思えるような的を用意する。(トンネルの数や目印、色を変えて、幼児が目標にできるようにする)
・当たると音が鳴るように的を工夫する。

・一人一人ができた喜びを感じ、次への意欲につながった。
・好きな場を選び、自分なりに目標をもって楽しむ姿が見られた。
・ボールが当たると反応があることで、繰り返し楽しむ姿につながった。
・教師の姿を見て同じようにやってみようとする姿につながった。

3歳児のまとめ

・教師が幼児と一緒に遊ぶことで、幼児の安心感や楽しさにつながった。
・イメージをもって楽しめるように、幼児の好きなもの(動物、電車、忍者など)を題材として取り入れ、その際、環境としてお面、衣装、的、BGMを用意することでなりきる姿につながった。
・幼児が自ら遊びたい場を選び、繰り返し楽しむためには、いろいろな場を用意し、その中に3歳児なりにできた嬉しさを感じる環境を設定することが大切だった。
・一人一人が自由な動きを楽しめるように、教師が幼児一人一人の動きを認めることが大切だった。
・教師が一緒に楽しんで取り組む姿を見せることで、幼児の意欲につながった。

活動例の吹き出し	イメージをもって動きを楽しめる環境	動きの自由さや選択性が保障された環境	意欲がもてるような具体的な目標

年中組

めざす幼児像　○いろいろな遊びに関わり、繰り返し取り組む
○友達と一緒にルールのある遊びを楽しむ

忍者の修行

期待する主な動き例
- 転がる　・投げる
- 跳ぶ　・くぐる
- 渡る　・登る
- またぐ
- バランスをとる

転がる術の修行

○忍者の修行のイメージで導入
・一斉で…忍者をテーマにしたリズムを踊る
・好きな遊びで…バンダナを身に付けて忍者になりきる忍者ごっこ

↓

・普段の生活や遊びの中ではあまりしない動きの経験につながった。（転がる、投げる、跳ぶ、くぐるなど）
・いろいろな動き方を自分なりに工夫する姿が見られた。

玉手裏剣の修行

○幼児が体を動かしたくなるような場の設定（巧技台、マット、平均台など）
○いろいろな高さ･数の的（フープをぶら下げる）を設定
○軌道がわかりやすく魅力的なボール（新聞紙ボールにミラーテープを付けた物）を使用

↓

・自分のペースで場を選びながら取り組む姿が見られた。

長なわ

期待する主な動き例
- リズミカルに跳ぶ　・回す

○繰り返し取り組む姿を認め、励ましたり、達成感に共感したりする。

↓

・自分なりのめあてをもって繰り返し取り組む姿が見られた。
・できた満足感や達成感が次への意欲につながった。

○幼児がやりたいときに自由に出し入れでき、扱いやすい用具を分類することと環境の設定

↓

・友達と励まし合ったり、頑張りを認める言葉を掛けたりしながら一緒に取り組む姿が見られた。

忍者鬼（助け鬼）

期待する主な動き例
・走る　・止まる　・手をつないで歩く、走る
・相手の動きを見て動く（逃げる、避ける、捕まえる）

○毎回同じ場に、陣地を設定し、遊びだしやすいようにする。

・いつもの環境が準備してあることで、やりたいと思ったときに、すぐに遊ぶことができた。

○忍者とお邪魔忍者に分かれて、忍者の修行のイメージで導入

・イメージがあることで、ルールを理解しやすかった。
・忍者のイメージをもつことで、「忍者パワー!」など、忍者のように速く走ろうとしたり、逃げ切ろうとしたりする姿が見られた。

○逃げる、捕まえる、助けるなど、自分なりの目当てがもてるようなルール

・自分に合った目当てをもって、取り組む姿が見られた。

玉入れ

期待する主な動き例
・かごに向かって投げる　・拾う

○チーム対抗戦にし、勝敗をつける。
○玉をたくさん準備し、一人一人が繰り返し玉を投げられるようにする。

・勝ちたい気持ちから、投げる意欲が高まった。
・勝った喜びや負けた悔しさが次への意欲につながった。
・何度も玉を拾って繰り返し投げ、自分の玉が入ったことを喜び、満足感をもつ姿が見られた。

4歳児のまとめ

・『忍者』のイメージは年中児にとってわかりやすく親しみがあり、ルール理解の手助けとなった。また、忍者になりきって動くことが、いろいろな動きを自分なりに考えたり、挑戦したりするきっかけとなった。
・遊びたいときにすぐに遊び出せるよう用具を準備し、環境を設定しておくことで、幼児がやりたいと思ったときに、いつでも繰り返し遊ぶことができた。
・簡単なルールと勝敗のある運動遊びでは、勝った喜びや負けた悔しさを感じることができ、次への意欲につながった。

活動例の吹き出し	イメージをもって動きを楽しめる環境 / 動きの自由さや選択性が保障された環境 / 意欲がもてるような具体的な目標

年長組

めざす幼児像　○いろいろな動きに自分なりに挑戦し、できた達成感を味わう
○友達と一緒にルールのある遊びをしながら、競い合ったり、認め合ったりするなどの楽しさを味わう

忍者の修行

期待する主な動き例　・跳ぶ　・這う　・くぐる　・渡る　・引っ張る　・投げる　・転がる

壁渡りの修行

○幼児が作った手裏剣や壁面などを使って、修行のイメージと動きを対応しやすくする。

・忍者になりきって動いたり、修行のイメージで繰り返し挑戦したりしていた。

○それぞれの場での動きの中で、幼児に意識させたいことを、始める前に確認したり、活動後に振り返ったりする。
○「落ちないように進む」「音が鳴らないようにくぐる」など、具体的なめあてがもちやすく、何回も試したくなるような環境を設定する。

・自分なりの意欲をもって取り組んでいた。

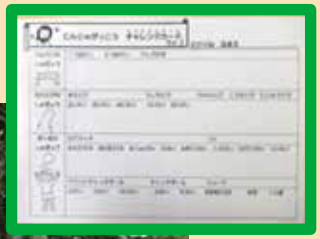
山登りの修行

屋根歩きの修行

○幼児の様子に応じて、コーナーの種類や数、用具の高さや距離などを変える。
○幼児なりの動きを認める。

・自分のやりたい場を見付けて、繰り返し取り組んだり、いろいろな動きに触れたりしていた。

チャレンジカード



期待する主な動き例
・ぶら下がる　・跳ぶ
・支える　・投げる
・回る　・捕る
・登る　・突く

○固定遊具、縄跳び、ボールの中からやりたいことを選んだり、簡単な課題から少しずつ挑戦したりできるようにチャレンジカードの項目を設定する。
○自分なりに挑戦する姿を見守ったり、励ましたりする。

・自分のめあてを達成する喜びを味わった。

○友達の姿から刺激を受けたり、互いに認め合ったりすることにつながるように、みんなで取り組む機会をつくる。
○進んで取り組んだり、繰り返し挑戦したりする幼児の姿を認める。

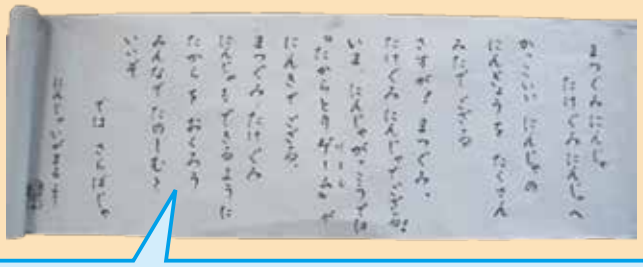
・自分から、いろいろな動きに挑戦しようとするようになった。

宝取りゲーム

期待する主な動き例
・追いかける　・逃げる　・かわす

○始める前にチームの友達と相談して、役割分担をしたり、作戦を考えたりする。

・自分のやりたい役割を選んだり、友達と力を合わせて遊んだりすることを楽しんだ。

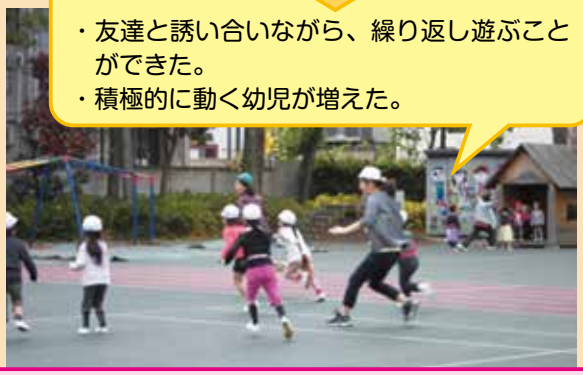


○忍者の巻物で、『宝取りゲーム』の遊びを知らせ、興味をもって取り組めるようにする。
○風呂敷包みの中に鈴を入れた物を宝にして、宝のイメージをもちやすく、鈴の音で取ったことがわかるようにする。

・共通の遊びのイメージをもち、勝敗を楽しみながら動いていた。

○幼児が自分たちで遊び始められるように場を設定し、用具を置いておく。
○教師も遊びの仲間に入りながら、隙を見て動く、かわす、友達を助けるなど、幼児のよい動きをつぶやいたり、認めたりする。

・友達と誘い合いながら、繰り返し遊ぶことができた。
・積極的に動く幼児が増えた。



ドッジボール

期待する主な動き例
・投げる　・避ける　・捕る

○ボールのスピードに応じて、２つのコートから幼児が選べるようにする。（『ビュンビュンコート』『ほわほわコート』）
○幼児から上がったルールを取り入れて、①内野のみ、当てたら帽子の色を変える→②外野あり、当てたら内野に戻るルールに変更する。

・自分たちの遊びとして、友達と必要なことを伝え合いながら遊びを進める姿が見られた。

○「ボールをよく見て逃げる」「ワンバウンドのボールは捕る」など、幼児の姿に応じて、動きの具体的なポイントを意識できるようにする。

・投げ方や逃げる動きのこつに気付いたり、チームとしての勝敗の楽しさを味わったりできた。

5歳児のまとめ

・『忍者の修行』の取組を生かし、忍者のイメージを『宝取りゲーム』や『チャレンジカード』に取り入れることで、遊びへの興味が高まった。
・学級や学年全体で楽しんだ遊びを、自分たちで遊び始めることができるように用具やコートなどを用意しておくことで、自分たちでチームを選んだり、役割分担を友達と相談したりして遊びを進める姿につながった。
・『宝取りゲーム』、『ドッジボール』、『チャレンジカード』は、友達と協力しながらチームの勝敗を競う面白さや、自分のめあてに向かって挑戦する楽しさを味わうことができる年長組の２～３学期の時期に合う活動だった。

<幼稚園資料>

多様な動きを経験するための遊び・活動内容の整理（一覧表の作成）

年少

○いろいろな動きに興味をもつ。
○走ることが楽しい。

○活動名　☆活動の楽しさ　・経験する動き　　特に意識して取り入れた活動

1学期

○リズム「はしってはしって」
・繰り返し走る
・音楽を聞きながら跳ぶ

○こいのぼりを持って
・こいのぼりを持って走る

○むっくりくまさん
☆教師や友達との関わり
☆イメージの中で動く
・逃げる・追いかける

○追いかけっこ
☆教師とのスキンシップ
・追いかける
・逃げる

○探検・遊園地コーナー（巧技台）
・跳ぶ　・渡る　・よじ登る
・くぐる　・四つん這い　・登る
・バランスをとる　・すべる

○風船ボール
・両手で投げる
・的に向かって蹴る

2学期

○かけっこ → ○リレーごっこ（道路）
・目的に向かって走る
・合図を聞いて走る
・目的に向かって走る
・教師や友達と一緒に走る

○オオカミさん
☆イメージの中で動く
・音楽に合わせて動く
・目的の場所に逃げる

○オオカミと子ブタの引っ越し鬼
☆イメージの中で動く
・合図で動く
・目的の場所に逃げる

○相撲ごっこ
・押す　・踏ん張る

○風船ボール（弾む）
○新聞紙ボール
・転がる
・投げる（両手、片手）
・つく　・取る

○流れ星ボール
☆イメージをもって投げる
・投げる（上へ、遠くへ、目的に向かって）

○三輪車
・こぐ

○フープ
・転がす・回す
・跳ぶ　・取る

○長なわ
・跳ぶ　・跳び越す
・くぐる　・引っ張る

3学期

○ビニール凧、くるくる凧
・走り回る

○たこ星人（しっぽとり）
・走る　・追いかける
・逃げる　・しっぽを取る

○色鬼
・目的に向かって走る
・簡単なルールの中で動く

○ボール遊び（体育館）
☆いろいろなボールに親しむ
・投げる（上、前、教師と一緒にバスケットゴールへ）
・捕る（バウンドさせて、投げて）
・転がす（友達と、自分の体の周りを）
・蹴る　・持って走る

年中

○いろいろな遊びに関わり、繰り返し取り組む。
○友達と一緒にルールのある遊びを楽しむ。

1学期

○しっぽ取り
・逃げる
・追いかける
・つかむ

○助け鬼
☆友達とのつながり
☆イメージの中で動く
（オオカミと子ブタ、忍者鬼等）
・逃げる　・かわす
・追いかける　・よける
・捕まえる　・止まる

○ぎろろんやまごっこ
○忍者の修行
（巧技台、ゴム跳び等）
☆イメージをもって動く
・跳ぶ　・跳び越す
・よじ登る　・這う
・投げる　・跳ねる

○固定遊具
（鉄棒、登り棒）
・登る
・ぶら下がる
・支える

○プール

○スクーター
・こぐ

2学期

○かけっこ →
○折り返しリレー
・真っ直ぐ走る
・バトンを受け渡す

○ドンじゃんけん
・線上を走る（歩く）
・止まる
・相手の動きを見ながら走る
速さを調整する

○玉入れ
☆チーム対抗で勝敗がある
・投げる（片手投げで上から、下から）

○ボール遊び
・蹴る　・つく
・投げる（目的に向かって）
・捕る（バウンドさせて、投げて、友達から）
・転がす

○長なわ
・両足をそろえて跳ぶ
・リズムにのって跳ぶ
・回す

3学期

○しっぽ取り
☆チーム対抗で行う
☆勝敗がある

○転がしドッジ
・転がす
・逃げる
・避ける

○短なわ
・跳ぶ
・走る
・電車ごっこ

年長

○遊びを通していろいろな動きに自分なりに挑戦し、できた達成感を味わう。
○友達と一緒にルールのある遊びをしながら、競い合ったり、認め合ったりするなどの楽しさを味わう。

1学期	2学期	3学期
○折り返しリレー ○ことしのぼたん ☆スリル感がある ・合図を聞いて走る ・逃げる ・追いかける	○周回リレー ☆友達と一緒に取り組む　☆チームで競う、勝敗がある ☆スリル感がある（抜く、抜かされる） ・思い切り走る　・足をあげて走る ・腕を振って走る　・相手をよく見てバトンを渡す ・バトンをよく見て掴む　・コーナーに沿って走る	○増やし鬼 ・逃げる ・追いかける ・捕まえる
○いろいろな動きに挑戦! ・這う　・転がる　・跳び越える ・手足を床に付き、伸ばして歩く ・はいはいをする　・おしりで歩く ・跳び乗る　・行進する　・スキップ ・走る　・ギャロップ　・後ろに歩く	○宝とりゲーム ☆スリル感がある ・相手の動きを見ながら走る ・逃げる　・追いかける	
○忍者の修行 ☆イメージをもって動く ・跳ぶ　・くぐる　・走る　・ぶら下がる ・しがみつく　・投げる　・渡る　・腹這い ・リズムに合わせて体を動かす	○チャレンジカード（固定遊具・短なわ・ボール遊び）→ ☆自分なりに目的がもてる ・ぶら下がる　・自分の体を支える ・手足を使ってしがみつく　・のぼる ・回転する　・縄を回す　・タイミング良く跳ぶ	
	○短なわを使って遊ぶ ・跳び越す　・体を伸ばす　・体をくぐらす	○ドッジボール ・片手で投げる ・バウンドさせないで投げる ・ボールをキャッチする ・ボールや相手の動きを見て逃げる ・避ける
○中当て → ・投げる（両手、片手） ・相手をよく見て投げる ・相手を見て逃げる ・ボールを避ける		

幼小の接続期における運動遊び

・ねらい引用：東京都教育委員会　就学前教育開発委員会指導資料　・＜　＞：活動例を通して経験できること、指導の配慮点など

	接続前期（5歳児　11月～12月）	接続中期（5歳児　1月～3月）	接続後期（小学校第1学年　4月～7月）
ねらい	・いろいろな運動遊びに進んで取り組み、体を十分に動かして遊ぶ楽しさを味わう。 ・道具や用具、遊びに使う場所など安全に気を付けて遊ぶ。	・友達と積極的に体を動かす運動に取り組み、競い合う楽しさや、ルールをつくってみんなで遊ぶ充実感を味わう。 ・運動用具の使い方が分かり、活用したり工夫したりして遊ぶ楽しさを味わう。 ・危険な遊び方や場所に気付き、自分で判断して安全に行動しようとする。	・友達と関わりながら進んで体を動かして遊んだり、運動に取り組んだりする。 ・様々な運動を新しく行うことを通して基本的な動きを身に付け、体力を養う。 ・誰とでも仲良くし、安全に留意して、意欲的に運動する。
活動例	○チャレンジカード → （うんてい、鉄棒、登り棒、なわ跳びなど） ＜・多様な動きを経験することができる。 ・自分なりにめあてをもち、挑戦する姿につながる。＞	＜・友達が頑張っている姿に気付き、相手を認める姿につながる。 ・友達の姿が刺激になって、さらに意欲が高まる。＞	○固定施設を使った運動遊び ○体ほぐしの運動 ○多様な動きをつくる運動遊び ○鬼ごっこ ○わらべ歌（伝承遊びなど） ○スキンシップを兼ねた多様な動き ＜・保育園、幼稚園等で親しんでいた遊びを取り入れることで、児童が安心して活動に取り組むことができる。遊び方が異なるときには、いろいろな遊び方があることを教師が受け止め、その後、学級でのルールを統一していくことで、つながりやまとまりを感じるようになる。 ・活動を通して、友達づくりや友達への親しみにつながる。いろいろな友達に関わることができるように、遊び方を工夫する。＞
	○鬼ごっこ → （助け鬼、しっぽ取り、バナナ鬼など）		
	○宝取りゲーム → ＜・思い切り走ったり、相手を意識して身をかわしたりする動きを経験できる。 ・教師と一緒に鬼遊びの場を設定する中で、安全な場の作り方を意識することにつながる。＞	○ドッジボール ＜・同じチームの友達とのつながり、競い合う楽しさなどを味わうことができる。 ・遊びを通して、自分たちでルールを確認したり、新たなルールをつくったりする姿につながる。 ・幼児自身で、他の遊びの場を意識したり、遊びに応じた場を選んだりするようになる。＞	○体育・休み時間・ロング放課後遊び ○整列、行進、かけっこ、リズムなど ○水遊び（水に慣れる、浮く・もぐる遊び） ＜・小学校での学習態度や必要なルールを知り、主体的に学校生活に関わる意欲につながる。 ・様々な運動遊びを経験し、基本的な動きを身に付けることができる。＞
	○わらべ歌 → （はないちもんめ、なべなべそこぬけ、ことしのぼたんなど）	＜・遊びを通して、友達とのつながりを感じることができる。 ・多様な動きの経験や調整力を養うことにつながる。＞	

豊かな心と健　やかな体の育成

小学校　「自分やみんなを大　切にする児童の育成を目指して」
（主体性・関わ　る力・健康と体力）

幼　稚　園

体を動かす心地よさ

幼児期に
主体性
関わる力
健康と体力の
基礎を培う

友達と一緒に遊ぶ楽しさ

○集団での多様な運動遊び
○体を動かす遊び
（時間と場の確保）
○発達の特性に応じた遊びの提供

多様な動きを引き出す

入学前の体験を生かした遊び・活動・体験授業・十分な楽しさ体験

・基本的な動きの積み重ね
・思いや考えを伝える

○低学年の小グループ活動から　高学年の小集団活動へ（全教育活動）
（主体性・関わる力）
体育科の　実践から汎用性・汎用的能力育成
○体育・保健学習・食育の充実　（主体性・関わる力・健康と体力）
○年間約60回の1時間ロング放　課後遊び　（関わる力・健康と体力）
○ふれあいタイム（全校縦割り　活動）　（主体性・関わる力）

幼小共通の課題

○運動量や体力の2極化
○思いやり・関わる力・主体性の2極化

運動の　機会
体を動かす機　会の充実

関わる機会の充実

小集団活動の展開
全教育活動で

小集団活動の活性化のために

・自己肯定感のもてる教材の工夫
・学習カードなどの工夫
・ICT活用の工夫　等

小集団活動で期待すること
（課題解決的な学習の形態のひとつとして）

○学習意欲の向上（主体性）
○人間関係やコミュニケーション能力の育成（関わる力）
○思考力・判断力の向上（主体性）
○認知的能力の向上（主体性・関わる力）
○言語活動の充実（主体性・関わる力）
言語がコミュニケーションを充実させ、知的活動、思考力・判断力を向上させる
言語能力 → 思考力 → 実践力
（知識・技能の定着）

*教科をはじめ行事などでも小集団活動を効果的に取り入れる。

久松の心と　体の健康教育

豊かな心の育成

久松しぐさ
異年齢交流
体験活動の重視
奉仕活動

健やかな体の育成

○小集　団活動・小グループ活動（全教育活動で）
○体育・　保健学習・食育の充実
○ふれ　あいタイム（全校縦割り活動）
○ロン　グ放課後遊び（年60回×1時間）
○水泳・　器械運動サポート教室

小学校

低学年でめざす子ども像

・誰とでも仲よくし、思いやりのある温かい人間関係を築こうする子
・基本的な生活習慣を身に付け、思いきり体を動かして遊ぶ子

低学年

体育科でめざす子ども像

【豊 か な 心】誰とでも仲良く一緒に運動し、思いやりのある温かい人間関係を築こうとする子
【健やかな体】様々な動きを経験し、体の基本的な動きを総合的に身に付け、思いきり体を動かして遊ぶ子

1年 体育科「体つくり運動」多様な動きをつくる運動遊び

移動・バランスをとる運動遊び
用具を操作する運動遊び（短なわ・缶ぽっくり）

具体的手だてと活動

小グループの活用工夫・配慮したこと

・子ども同士が声を掛け合い、一緒に活動する楽しさを味わい、よりよい関わりを築くために、生活班（3～4人）で活動した。
・数を数えるなど、友達の動きを見ながら、一緒に行うようにした。

グループの友達と交代で行うことで、バランスをとる運動遊びの感覚を養った。

生活班（3～4人）を活用し、一緒に運動したり、なわ跳びの跳んだ回数を数え合ったりした。
グループの友達と同じ跳び方をしたり、リズムを変えて跳んだりした。（幼児期に親しんでいた曲を流す）

缶ぽっくりでは、自分たちでつくった障害物を、どこに置いたら楽しく活動できるか、小グループで工夫した。

まとめ

・友達とリズムを合わせてなわ跳びをしたり、同じ跳び方をしたりして、学び合いができた。
・どこに障害物を置くか相談し、缶ぽっくりで動くこと自体を楽しみ、活動することができた。

低学年

生活科でめざす子ども像
【豊 か な 心】自分の思いや願いをもち、身近な人や自然などと関わり合って気付きを広めたり、深めたりする子

1年 生活科「きゅうこんをそだてよう」

自分たちで「できた」達成感を味わえるように

具体的手だてと活動

小グループの活用工夫・配慮したこと

・子ども同士が声を掛け合い、一緒に活動する楽しさを味わい、よりよい関わりを築くために、生活班（３～４人）で活動する。
・「命を育てる気持ちを育む」ことを目的に、植えるときに大切なポイントを明確にし、一人一人が意欲をもてるよう、事前の指導を行う。

生活班で声を掛けたり分担したりしながら、鉢に土を分け入れた。

互いに、球根を植える位置や高さなどを聞いたり、教えたりすることで関わり合いが深まった。

まとめ

球根を植える準備や後片付けまで、それぞれが自分にできることを行い、班で協力してやり遂げることができた。力を合わせて球根を育てる活動を通して成長の変化や命があることを感じることができた。

低学年

体育科でめざす子ども像
【豊 か な 心】誰とでも仲良く一緒に運動し、思いやりのある温かい人間関係を築こうとする子
【健やかな体】様々な動きを経験し、体の基本的な動きを総合的に身に付け、思いきり体を動かして遊ぶ子

2年 体育科「体つくり運動」 多様な動きをつくる運動遊び チャレンジにんじゃランド

移動・バランスをとる運動遊び
用具を操作する運動遊び（ボール）

具体的手だてと活動

小グループの活用

子ども同士が一緒に運動する中で互いのよい動きに気付きやすくし、互いの課題解決を図りながら、よりよい関わりを築くために、3～4人の小グループで活動する。

遊びの世界をつくりだす工夫

◎教師が忍者になりきる

子どもが夢中になって遊びに取り組めるようにするために、教師が忍者になりきる。

◎掲示物や教具の活用

忍者になりきるために巻物や地図、イラストを活用する。遊びの世界に浸り、夢中に取り組む。（幼児期に親しんでいた遊び）

前時までに出た、学習カードの記述からよい動きを確認

今日のめあてを全体で確認

「よい動きを紹介する時間」の活用

子ども同士で見付けた「よい動き」を紹介することで、活動する遊びの種類を増やす。

《適切な支援》
・こんな工夫があったよ。
・どうやったらうまくいったかな?

紹介は3人グループで!

ワークシートの活用

ワークシートに友達のよい動きを書き込むことで、動きのこつやよい動きに気付き、自分の動きに取り入れやすくする。

まとめ

・小グループで子ども同士が一緒に活動することにより、互いの動きを見て動きのこつに気付き、よい動きを取り入れやすくなった。動きが広がった。

低学年

生活科でめざす子ども像
【豊 か な 心】自分の思いや願いをもち、身近な人や自然などと関わり合って気付きを広めたり、深めたりする子

2年 生活科（校外学習での活動）

具体的手だてと活動

事前指導の実施 小グループ活動をよくするための工夫

動植物園にはどんな種類の動物がいるのかを事前に知り、活動への意欲を高める。

小グループでどこから見学をするのか順路を考え、自分たちで考えて進んで行動する意識を高める。

園内の地図の活用

動植物園内の地図を見て自分たちで観察場所を確認しながら見学を行う。

体験を元にした たんけんカードへの記入

動植物園での体験をもとに、わかったことをたんけんカードに記入する。

小グループでの活動

子ども同士が話し合い、一緒に同じ活動をする楽しさを味わうことでよりよい関わりを築き、観察できるように、3～4人のグループで活動する。

豊かな心を育てるための生き物とのふれあい体験

普段は触ることのできない小動物を実際に抱き上げるなど、ふれあい体験を通し、生き物への豊かな心を育む。

まとめ

・事前指導を十分行ったことにより、スムーズに小グループでの活動に取り組むことができた。

低学年

図工科でめざす子ども像
【豊 か な 心】・友達や材料との関わりを楽しむ子
・自分の思いや願いを表現し、自分や友達のよさに気付く子

2年 図画工作科「たまごがかえった」

具体的手だてと活動

小グループの活用

3～4人のグループで、作品の色合いや生き物の表情・体の模様などについてアドバイスし合ったり、助け合ったりしながら活動する楽しさを味わう。

いろいろな色の粘土が使えるように、グループで手分けをして、自分や友達のためにカラー粘土をつくることで、自他を大切にする心を養う。

準備や後片付けについても話し合いをして仕事を分担したり、全員で協力したりする中でコミュニケーション能力（関わる力）を育成する。

鑑賞タイムの設定

制作途中に『鑑賞タイム』を設け、全員で作品を鑑賞し、友達の作品のよさ（どこが、どのようによいのか）を言葉で伝え合ったり、温かい言葉を掛け合ったりして意欲を高める。

友達の作品のよいところ（色・形）を書いた付箋は、黒板に貼って分類し、学んだことを自分の作品に生かす。

まとめ

・小グループ活動を行ったことで、友達のことを思いやって活動することができるようになった。
・鑑賞タイムは自分や友達のよさを認め合うよい活動だが、制作時間とのバランスを考えたい。

中学年

中学年でめざす子ども像

・互いの違いを理解し、よさを認め合い、温かい関わりを大切にする子
・意欲をもって様々な活動に挑戦し、進んで体を動かす子

体育科でめざす子ども像
【豊 か な 心】互いの違いやよさを理解し、よりよい関わりができる子
【健やかな体】基本の動きを理解し、意欲的に体を動かして、様々な活動に挑戦しようとする子

3年 体育科「走・跳の運動」小型ハードル走

具体的手だてと活動

小集団（小グループ）の活用

子ども同士で関わり合いながら学習する経験をもてるようにするために3人の小集団を構成する。

よりよい小集団活動のための役割の理解

小集団で活動するときに「何を」「どのように」「誰が」「いつ」など3人での学習の進め方、めあてに向けての取組方を理解させ活動する。役割は①「走者」②「タイムを測る」③「インターバルのリズムを見る」の3つに分担し、ローテーションする。

ハッピーワード・ハッピーアクションの導入

よりよいコミュニケーションがとれるよう意識できるようにするため、前向きな声掛けやよい動きへのアドバイスを具体的に行えるように、言葉掛けを大切にする。

場の工夫

いろいろなインターバルを経験できるようカラーコーンで色分けしたコースをつくり、個々の興味や課題に応じて選んだコースで学習する。また、走者の動きを見るために適した場所に目印を付け、技能ポイントを見合うための素地を養う。

まとめ

小集団(小グループ)活動を取り入れ気付いたことを教え合うことを通して、自主的に学習に取り組み、技能ポイントをより意識して活動することができた。

中学年

体育科でめざす子ども像
【豊 か な 心】互いの違いやよさを理解し、よりよい関わりができる子
【健やかな体】基本の動きを理解し、意欲的に体を動かして、様々な活動に挑戦しようとする子

3年 体育科「ゲーム」ネット型ゲーム　キャッチバレーボール

具体的手だてと活動

小集団（小グループ）の活用

連続して同じ仲間と学習することで、協力し合うことや認め合いながら取り組むことを意識できるようにする。高学年で高め合うことができる小集団活動への準備段階と考える。

ルールの理解・工夫

基本のルールを提示しながら、子どもたちがルールを考え、ゲームをより楽しめるような工夫をチームで考えられるようにする。

チームのめあてを達成するぞ!

チーム練習の充実（時間の確保）

ゲームに生かせるドリルゲームやタスクゲームを多用し、チーム意識を高めると同時に、ゲーム場面で有効な動きであることに気付かせる。また、作戦を考えるときのヒントになるようよい動きを教師が称賛することで気付くようにする。

30秒以内でなるべくたくさんパスしよう!

フープをねらってアタックしよう!

振り返りカードの活用

振り返りカードを用いて、学習の流れやめあてを理解したり、自分たちでめあてを立てたりする。また、振り返りの言葉を丁寧に見取り、児童へフィードバックをすることで子どもたち同士の連携を深める。

○○さんのアタックがたくさん決まったね!

まとめ

児童の中にチームで上達しようという気持ちが高まり、練習の中で温かい声掛けをしたり、作戦を考えたりする積極的な様子が見られた。

中学年

音楽科でめざす子ども像
【豊 か な 心】音楽表現の楽しさや友達と協力する楽しさを感じながら進んで音楽に関わる子

3年 音楽科「場面に合う音をつくろう」

「おかしのすきな　まほう使い」を教材として音づくりの学習に取り組んだ。小集団で試行錯誤しながら楽器を選び、音の出し方や組み合わせ方を工夫し、イメージに合う「まほうをかける音」をつくる。

具体的手だてと活動

小集団づくりの配慮

どの小集団も活発な活動ができるよう、メンバー構成には次の点に配慮した。
①活動がしやすい人数（4人）
②小集団ごとの音楽的な能力がほぼ均等になるような工夫

教科書を見ながら楽器選択の相談をしています。自分たちのイメージする音を出せる楽器は何?

互いの思いを音で実現

つくりたい音のイメージを共有するために、様々な音源を十分に試しながら話し合いを重ねる。音源の組み合わせ、音の強弱、構成の工夫など、音を通しての話し合いを深めることにより、互いの思いが具体的に共有されていく。

「キラキラしたイメージ」の音をつくっています。音の出し方を考えてはみんなで確かめる作業を何度も繰り返しています。

特色ある教育活動 ブラスバンド部「新旧引継ぎ活動」

本校ブラスバンド部は、5･6年生による異学年活動の形になり5年目を迎えた。毎年2学期には次年度のメンバー（4年生）をオーディションで選抜し、その後、5･6年生から4年生への引継ぎ活動が行われる。

細かいリズムを丁寧に正確に刻もう。リズムがずれると演奏全体がずれるからね。

引継ぎ活動では、演奏技能面だけでなく精神的な面の引継ぎも重視している。
久松小学校のブラスバンド部メンバーとしての心構えや責任の重さ、また伝統を守り伝えていくことの大切さなど、児童はそれぞれの立場から大切なことを学んでいる。

パートごとの小集団に分かれ、5･6年生は4年生に各楽器の奏法を丁寧に教えていく。先輩は毎回チェックカードに練習の様子を記録し、引継ぎの進み具合を先生に報告し次回の練習内容などの指示を受ける。6年生は引退するまでに、「君が代」「校歌」「行進曲1曲」を教えることを目標としている。

まとめ　各教科で取り組んでいる小集団の学び合い活動は、ブラスバンド部など課外活動の場でも自然に生かされるようになった。

中学年

特別活動でめざす子ども像
【豊 か な 心】互いに認め合い、主体的に活動できる子

4年 特別活動（集団・宿泊的行事） 遠足・柏セカンドスクール

具体的手だてと活動

小グループの活用（意図的・計画的な取組）

工夫・配慮したこと

・それぞれ「学習過程」の中で、互いの違いやよさを理解し、よりよい関わりをするために、3～4人による小グループ活動を取り入れた。
・遠足での経験を宿泊行事に生かせるように、意図的・計画的に小グループによる活動を取り入れた。
・小グループの中で役割分担をし、それぞれの役割の中で必要な情報を伝え合ったり、計画にそって活動したりできるようにした。

・役割ごとに分かれて、他のグループと互いの学習状況を確かめる時間を確保することで、学習の広がりや深まりが見られた。

・小グループでの活動により、一人一人に活躍の場が与えられ、そのことが学習意欲を高めることにつながった。

・小グループ活動によりお互いに得意なこと、苦手なことを補い合え、温かい人間関係や豊かな心の育成につながった。

・集団で活動する意識が高まり、友達との関わりにもよい影響があった。

・小グループでの活動は、意見を言いやすく活性化しやすいため、言語活動の充実につながった。

まとめ

・体を動かす機会や関わる機会を保障することで、中学年のめざす子ども像に迫ることができた。

中学年

体育科「保健学習」でめざす子ども像
【豊 か な 心】互いの違いやよさを理解し、よりよい関わりができる子
【健やかな体】自らの生活を見つめ、よりよい健康づくりを実践しようとする子

4年 体育「保健学習」育ちゆく体とわたし

具体的手だてと活動

小集団(小グループ)活動

一人一人の成長の違いを理解したり自分や友達の生活を振り返ったりし、友達の考えを知ることにより自己肯定感を高めていく。保健学習全4時間を通して、3~4人の小集団(小グループ)による活動を取り入れる。

栄養のバランスを考えないとね。

身近な生活における学習課題をもとに模擬実習を取り入れ、お互いの意見を交換し合う。

様々な考え方に気付くようにするとともに、友達の考えを合わせてよりよい方法を考える。

養護教諭・栄養士との連携

養護教諭・栄養士から専門的な話を聞き、理解を深めるとともに、意欲的に健康づくりを実践していこうとする気持ちを養う。

給食のメニューを例に挙げ、バランスよくいろいろな食品を食べることが大切であることや、その必要性を専門的な立場から説明する。

個人差の大きい思春期の成長や発達については、保健学習の時間だけでなく発育測定の時などにも養護教諭とともに学習する。

資料提示・学習カードの工夫

より具体性のある知識として定着し、意欲をもって課題に取り組めるようにするために、料理カードや大型テレビ、PC、デジタルカメラ等を使って資料を提示する。

料理カードを使って主食・主菜・副菜のバランスを考えたお弁当をつくりました。

理解をより深めるために、プレゼンテーションソフトを活用して資料を提示する。小集団で考えた内容を全体で共有するためにデジタルカメラで撮影したものをテレビに映し出す。

他教科等との関連

具体的で実感を伴った学習とするために、「早寝・早起き・朝ご飯」などの実践や「マイお弁当づくり」「マイ箸づくり」などと関連させて学習を進める。

箸の長さは、これくらいにしようかな。

総合的な学習の時間

外部講師を招き「マイ箸づくり」を毎年実施している。箸づくりを通して箸の歴史や使い方を学ぶ。

夏休みの課題

バランスのよい「マイお弁当」を家族とともにつくり、自分でつくったマイ箸で食べる。

まとめ

・他教科等との関連をもたせながら教育活動全体で健康教育を推進していくことができた。
・自己肯定感を高めるための小集団（小グループ）活動のさらなる充実を図ることが必要。

高学年

高学年でめざす子ども像

- 自己肯定感をもち、互いに尊重し合いながら、思いやりをもって進んで人との関わりを大切にする子
- 自分の健康や体の状態を知り、自分の能力にあった課題を選び、向上心をもって体を力いっぱい動かす子

特別活動でめざす子ども像
【豊 か な 心】互いに尊重し合い、よりよい人間関係を育む子

5年 特別活動「学級活動」活動内容（1）

議題「つくろう!楽しく笑顔いっぱいの5の2を」
～ワールドカフェの手法を用いて～

具体的手だてと活動

「ワールドカフェ」という話合いの手法を用いる【小集団活動】

新しい話合いの手法を用いて、わくわくしながら、自分たちで立ち上げたプロジェクトを自分たちで実行し、主体的な活動につなげる。

グループ毎に話合い決定することができること、友達の意見を否定してはいけないことがはっきりしているので、だれもが自信をもって意見を言うことができる。

学級の課題を明確にする

アンケートをとって自分たちの学級の課題を明確にすることで活動しやすくする。今、学級で問題なことは何かを理解し意見を書いて発表し合う。

学級に支持的風土をつくる

豊かな人間関係を積み上げていくために、学級内に相手を否定しない温かな風土をつくる。

話合いの場の設定を工夫する

テーブルクロスを敷いたり、リーダーが帽子をかぶったり、色ペンを使ったりして、話し易い雰囲気をつくる。

ワールドカフェとは

主体性と創造性を高める話し合いの手段として広く世界で注目されている。知識や知恵は、オープンに会話し人々がリラックスした状態で生み出されるという考え。

まとめ

- 「ワールドカフェ」という小集団による話合い活動を活用することで学級の中に主体的に活動しようという雰囲気が高まった。
- 学級内における課題をはっきりさせプロジェクトチームを組むことで自分で考えてどう活動したらいいのかわかるようになった。

高学年

体育科でめざす子ども像
【豊 か な 心】友達との関わりの中で、お互いに高まろうと活動する子
【健やかな体】運動の特性を理解し、自己の課題を明確にし、進んで運動する子

6年「水泳」～学び合い学習～

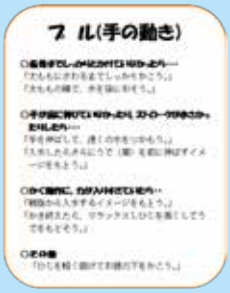
具体的手だてと活動

小集団の活用

子ども同士が声を掛け合い、一緒に運動する楽しさを味わい、互いの課題解決を図る中でよりよい関わりを築くために、3人の小集団で活動する。

言葉掛け例の資料の活用

子ども同士が主体的に言葉掛けを行うために、言葉掛け例の資料を作成したり、良い言葉掛けを積極的に賞賛したり、全体で共有する時間を大切にする。6年生は、グループの実態に応じて、活用するグループもあれば、自分の言葉で言えるようになるグループも見られた。



自己の課題をより明確にするための学習カード

小集団での学び合いの中で、自己の課題をより明確にするために、学習カードの課題を記入する箇所を具体的にした。

「平泳ぎのかえる足ができるようにする」などの抽象的な課題ではなく「何泳ぎの」「どこを」「どうするのか」という具体的な記述を引き出していくことで、児童の課題が明確になった。

ICT 機器の活用

自己の能力に適した課題をもち、進んで運動するための教材としてタブレット端末を導入、活用した。すぐに自分の泳ぎのできばえを振り返ったり、新たな課題を発見したりするのに効果的であった。

使用目的や使用効果を、児童自身が理解した上での導入がより効果的であった。

まとめ

泳力が異質の集団を組むことで、全員が主体的に言葉掛けをすることができるようになった。また、学習カードを工夫することで具体的な課題設定がし易くなり、教え合い活動の活性化につながった。
仲間に受け入れられ、課題に取り組めばできるという自信をもつことができるようになった。

高学年

体育科でめざす子ども像
【豊 か な 心】友達との関わりの中で、お互いに高まろうと活動する子
【健やかな体】運動の特性を理解し、自己の課題を明確にし、進んで運動する子

6年 体育「陸上運動」ハードル走

具体的手だてと活動

小集団の活用

子ども同士が声を掛け合い、一緒に運動する楽しさを味わい、互いの課題解決を図る中でよりよい関わりを築くために、3人の小集団で活動する。

ICT の活用

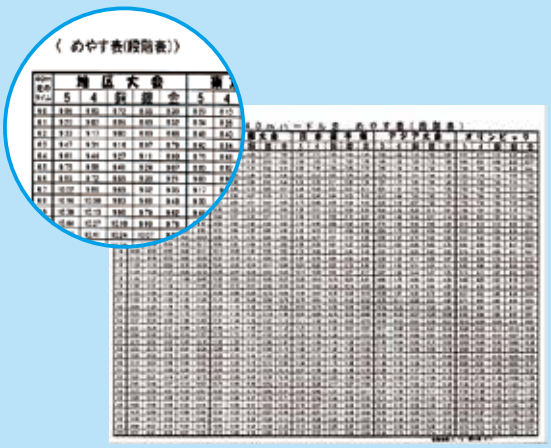
タブレット端末を使用し、10秒遅れの映像を見られるようにした。実際の動きを動画で確認することで、自分の課題が明確になり、解決に向けての意欲が高まった。また、教え合いの場面においても、映像を通してアドバイスができるので、理解が深まった。

技能ポイントの精選

技能ポイントを精選することで、子どもたちがその内容を容易に理解することができた。そのため、互いに教え合ったり言葉掛けをしたりするなど、友達との関わり合いも活発になった。

めやす表・段階表の活用

自己の能力に適した課題をもち、進んで運動するための学習資料として「めやす表･段階表」を導入、活用した。挑戦する楽しみや記録達成の喜びを感じることができた。



まとめ

めやす表や段階表を活用することで、自己の能力に適した課題をもち、進んで運動をすることができた。
タブレット端末を使用することで実際の動きを見ることができ、練習やアドバイスに生かすことができた。
仲間に受容され自信をもって取り組む姿が目立ってきた。

高学年

理科でめざす子ども像
【豊 か な 心】友達との関わりの中で、主体的･科学的に問題解決を行い、互いに高まろうとする子

6年 理科「水溶液の性質」

具体的手だてと活動

小集団の活用

水溶液の性質を調べる方法･内容などについて、互いの課題解決に向けよりよい関わり、話し合いができるよう3～4人の小集団で活動する。

気体が溶けている水溶液の実験
「二酸化炭素が、水に溶けるかどうか」

①主体的な学習への参加

意見をうまく言えない児童や作業に時間がかかる児童をうまく学習に参加させる言葉掛けができるグループが増えた。グループの中の傍観者がいなくなり、温かい雰囲気の中で学習が進められるようになった。

②話し合いの活性化

「わからないことを聞きやすい」や「自分の意見を言いやすい」など、友達全員の前で話し合うよりも、気軽に話し合いに参加することができた。

③思考の深まり

友達の考えを聞くことができたり、それをもとに自分の考えを振り返ったりできることで、子どもたちの思考の深まりを実感することができた。
自分と友達との関わりが、自分の考えを明確にすることにつながった。

水溶液の区別の実験
「ムラサキキャベツを使って色の変化を調べよう」

まとめ

小集団で学習することで温かい雰囲気の中、積極的に話し合い活動に参加する児童が増えた。
また、友達の考えや意見を聞くことで、自分の考えなどと比較することができ、思考が深まった。

食育　健康や食への関心・実践力

豊かな心の育成
健やかな体の育成

食育の目標

「早寝・早起き・朝ごはん」の考え方をもとに基本的な生活習慣を身に付けさせるため、給食指導や道徳及び全教育活動を通じ、

健全な食生活の実現
食文化の継承
健康の増進
物や人への感謝の念を育成する。

食についての自己管理能力の育成
健やかに生きるための基礎づくり

低学年
食べることに関心をもつ。食事の大切さや楽しさを知る。

中学年
食事の役割や食材に関心をもつ。元気に過ごすためのよりよい食事を考える。

感謝

高学年
食事つくりに主体的に取り組む。食と社会のつながりを考える。

食への関心

育てる　ふれる　つくる

1年　そら豆のさやむき

3年　JA徳島の皆さんからいただいた、なると金時里むすめの芋苗を屋上プランターで育て収穫した。

2年　トウモロコシの皮むき

5･6年　お弁当をつくろう
買物から調理、詰め合わせまで自分で完成させたお弁当（試食で話し合い）

食と健康

全校　養護教諭による「健康と食」

「早ね･早起き･朝ごはん･ゲームをやめて外遊び」への取組

全校　栄養士による「バランスのよい食事」

幼稚園の取組

幼稚園では、弁当や自分たちで育てたものを食べることを通して、食べる喜びや楽しさを味わい、「食」への興味や関心を高める活動や環境を取り入れた。

芋掘り遠足

年中･年長児が参加

カレーパーティー

年長児が育てた野菜を調理してたてわりグループで

小学校栄養士による食育教室

年少･年中･年長でそれぞれ

「物や人への感謝の念」をもつことで、人との関わり合いがあってこそ食事が摂れることに気付き、食文化を尊重する態度を育てる

人との関わり

マナー

兄弟姉妹学年による交流給食

幼小交流給食
保小交流給食

食の安全

アレルギー児童の給食は誰が見てもわかりやすいようにトレーの色を替えて配膳する。

食文化

家庭科
バランスのよい献立を考えよう

4年　マイ箸づくり
オリジナル箸をつくり、夏休みに家族とお弁当づくり

4年　夏休みのお弁当づくり
お弁当料理カードを使った家族へのお弁当つくり
夏休みに実践へ

命の大切さ

5年　みつばちプロジェクト

6年　本栖移動教室酪農体験
1日目は、食の日として
「ほうとうづくり」と「酪農体験」

感謝の心を育てる

命をいただく、自然・多くの人へ感謝

自然の恵み

3年
「サツマイモの
ひみつをさぐろう」発表会
幼稚園との芋掘り遠足を通し
育てる楽しさ、食への感謝

3年
屋上菜園でサツマイモの栽培
自然食を得るまでの手間を知る

5年　「久松米」勤労感謝集会で使用

体を動かす機会　関わる機会

マイスクールスポーツ「なわとび」・ふれあいタイム（全校縦割り活動）

数年前からマイスクールスポーツ「なわとび」は、縦割り班活動の一環としても取り上げ、関わる力・コミュニケーション能力の育成と心身の健康や体力についての関心を高めることを目的として実践している。上級生が下級生になわとびを教えたり、ともに体を動かしたりすることを通して思いやりの心を育む和やかな姿が見られる。

縄を使って、遊び方を工夫するグループも見られるようになった。

6年生を中心に、いろいろな跳び方をしたり、時間跳びをしたりする。

休み時間には、上級生がなわとび検定をしたり跳び方を教えたりする。

豊かな心を育てるために始めた「ふれあいタイム」（縦割り班活動）は、思いやりの心を育てたり共に体を動かすことに喜びを感じたりするよい機会である。
高学年は責任感を、低学年は大きな子を見て自立していく等よいところがたくさんある「ふれあいタイム」、子どもたちはこの時間を楽しみにしている。（雨天時は、室内ゲーム）

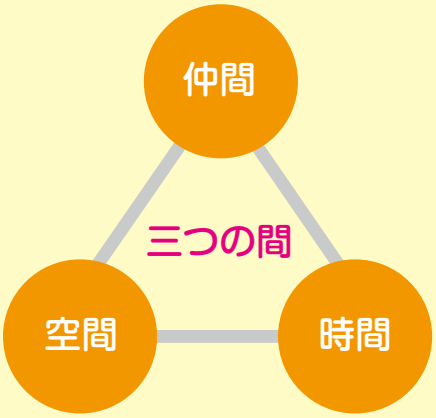
異学年で一緒に練習すると楽しくて、たくさん体を動かすことができる。

長縄跳びや簡単なボールゲームを楽しむようになり、一層グループの人間関係が深まる。

休み時間　ロング放課後遊び（時程の工夫で年60回×60分）

遊びの必要条件

三つの間



＋（プラス）　**手間をかけることが大切**

運動の機会や関わる機会を保障するために、時程を工夫し、ロング放課後遊びを毎週設定している。

遊ぶ時間と場所の確保で体を動かす機会と関わる機会を増やす

週2回、昼休みと清掃時間の工夫で、校庭で低・高別に遊ぶ時間を確保

サポート活動（関わる機会）（運動に親しむ機会）

6年生が、入学したての1年生の学校生活におけるサポートや、夏季水泳教室における指導補助や用具準備を進んで行っています。また、水泳とマット・跳び箱に苦手意識をもっている児童を対象に「サポート教室」を行い、苦手克服を目指しています。

登校した1年生の朝の準備をサポートする。

毎年6年生がピンクの帽子を被り、水泳指導のサポートを行う。

水泳サポート教室

マット・跳び箱サポート教室

感覚づくりを中心に行い、多くの教員が指導にあたるため、児童一人一人に充実した指導が可能になる。

体を動かす機会　関わる機会

異学年交流・保幼小連携など

保幼小の連携や多様な交流活動を通して、関わる機会を増やし豊かな心を育成する。

異学年交流

●1年生サポーター（1･6年）

新1年生のお世話を6年生が行う。

●学校探検（1･2年）　異学年交流

2年生が新1年生を連れて、学校を案内する。

●6年生との交流集会（1～6年）

集会で6年生と名刺交換やゲームをする。

●水泳サポーター（6年）

夏季水泳教室では、6年生が当番制で水泳のサポートをする。

●ブラスバンド（5･6年）　異学年交流

5･6年生が休み時間や放課後に練習をし、朝会や運動会で演奏する。新入部員に楽器ごとに教えていく。

●交流給食（1～6年）　異学年交流

異学年で給食を食べたり、ゲームで遊んだりする。

保幼小連携

●久松縁日（幼･5年）　幼小交流

5年生の総合的な学習の時間で園児のために縁日を計画し招待する。

●芋掘り遠足（幼･3年）　幼小交流

柏学園の芋掘りでは、3年生と園児でグループを組んで行う。また、国語で物語をつくり、園児に読み聞かせをする。

●交流給食（保幼･1年）　幼小交流･保小交流

幼稚園・保育園の年長が給食を体験。1年生と給食を食べる。近隣の年長児･1年生が人形劇を観て、遊ぶ。

地域交流

●デイサービスセンターでの交流（6年）

6年生が地域のデイサービスセンターでボランティアをする。

地域の方々に感謝状や贈り物を贈ったり、お話を聞いたりする。

●勤労感謝集会
－地域でお世話になっている方を招いて－

●わんぱく相撲特別練習（3～6年）

学区域内にある荒汐部屋へ行き、力士の方々に稽古をつけてもらう。

トップアスリートとの交流

運動に親しんだり、取り組んだりするきっかけとし、豊かな心と健やかな体の育成をめざす

柴田亜衣さん（競泳）

引っ越し先の近くにスイミングスクールがあったため、泳ぐことが好きな母・姉と通うようになった。
2004年　アテネ五輪　日本代表
競泳女子800M　自由形 金メダル
五輪での女子自由形の金メダルは日本人初

佐藤真海さん（陸上）

骨肉腫発症により2002年右足膝以下を切断
2013年サンパウロ大会で5m02cmの日本新記録、同年7月の世界選手権で銅メダルを獲得
2020年東京オリンピック・パラリンピック招致委員会プレゼンターを務める。

朝日健太郎さん（バレーボール）

元全日本代表
2002年ビーチバレーに転向
北京五輪代表（ビーチバレーボール）
日本ビーチバレー男子史上初の勝利を挙げ、予選ラウンドを2位で通過。決勝は9位

石黒由美子さん（シンクロナイズドスイミング）

7歳の頃、交通事故に遭い、入院中に観たテレビに感化され、シンクロクラブに入門した。
三半規管にも残るダメージの影響など、多くのハンデを負っていたが、2008年　北京五輪　日本代表に選出されチームリーダーとして代表チームを率いた。

猪谷千春さん（アルペンスキー）

1956年のコルティナダンペッツォ（イタリア）オリンピックに出場
スキー男子回転で、金メダリストのトニー・ザイラー（オーストリア）に次ぐ2位入賞し、銀メダルを獲得した。日本人としてはじめて冬季五輪メダリストとなった。

鈴木勝己さん（なわとび世界記録保持者）

時間跳び９時間46分01秒

前方２回旋跳び	10.133回	６回旋跳び	１回
３回旋跳び	441回		
４回旋跳び	98回		
５回旋跳び	20回		

萩原智子さん（競泳）

2000年シドニー五輪、200m背泳ぎ４位、
200m個人メドレー８位入賞。
2002年日本選手権では、100m、200m自由形、200m背泳ぎ、200m個人メドレーで史上初の４冠達成。

子どもたちの声から

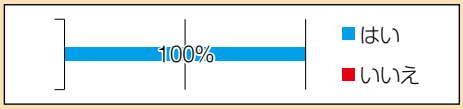
・自分の夢を叶えるために、どうのような生活をしたらよいかを考えました。
・もう運動ができないという絶望の中からはい上がってくる強い気持ちを見習いたいと思います。
・プロのスポーツ選手なのに、子どもの頃から運動が得意ではなかったと聞いて驚きました。
・文武両道だと思いました。大学で優秀な成績を修めていながら、オリンピックでもメダルをとることができたのはすばらしいことだと思います。
・家族に感謝しながらスポーツを続けていたことが、心に残りました。

まとめ
幼稚園

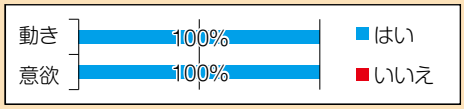
データから見る成果と課題

教師の意識調査から

○3つの視点を意識して、活動を取り入れたか。



○幼児の変容を感じたか。



〈すぐになりきる3歳児〉
お面を付けたり、雰囲気を感じられる曲を聴いたりするなど、イメージをもてるような環境があると、なりきって動き出す姿が見られた。

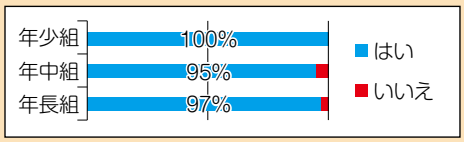
〈何でもやってみたい4歳児〉
教師が設定した遊びの中から、興味をもった遊びを選んで繰り返し取り組んでいた。それが楽しさを感じるきっかけとなり、いろいろな活動に自分から参加するようになった。

〈目標に向かって挑戦する5歳児〉
チャレンジカードがあることで、戸外に出るきっかけとなり、できなくても諦めずに繰り返し挑戦する姿につながった。また、友達と励まし合って取り組む姿も見られた。

具体的な意見

保護者アンケートから

○幼児の変容を感じたか。



具体的な意見

園で遊んでいる鬼ごっこのルールがわからず、家庭で遊べなかったので、教えてもらいたい。

できないことを怖がらず、やってみようと頑張る前向きな気持ちをもつようになった。

外遊びがずいぶん増えた。

我が子はスキップができないが、私自身もできない…

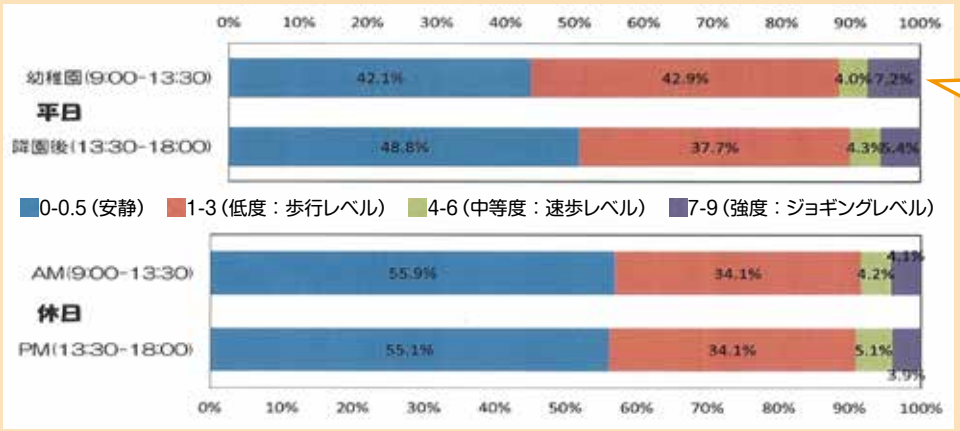
体を動かすと適度な疲労感が得られ、食事と睡眠が十分にとれて、規則正しい生活リズムがつくれると、改めて感じた。

幼稚園でやっている遊びを家庭でもするようになった。

運動能力調査から

①ライフレコーダー結果（平成25年12月）

平日、園での生活の中で、強度（ジョギングレベル）がこれだけ出ていることは、活発に活動していると言える。



幼稚園生活での調査結果

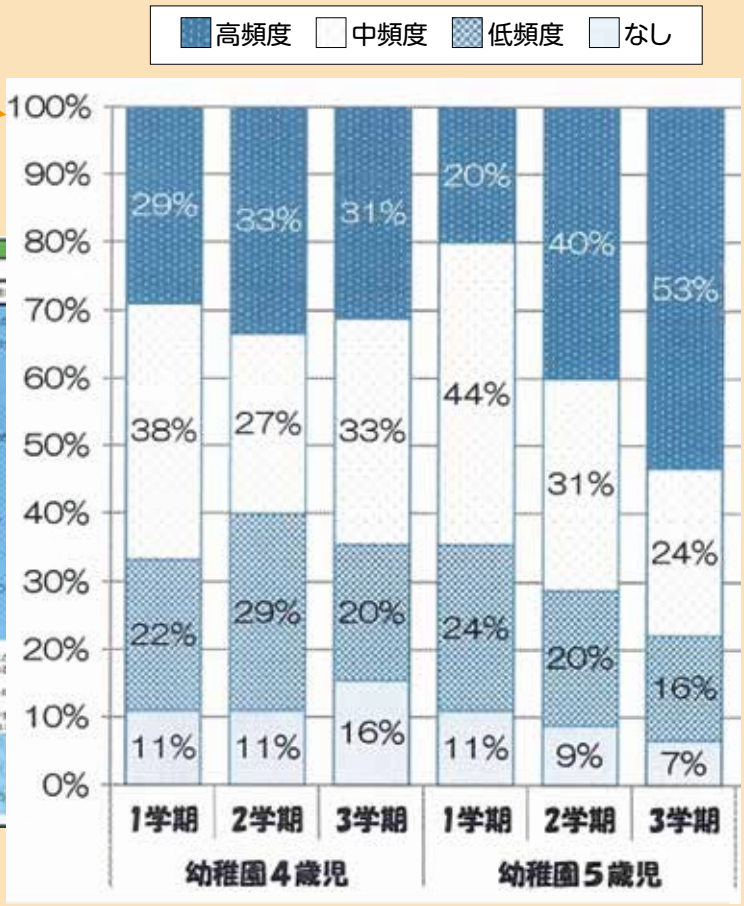
②担任による動きの頻度チェック

年間を通して、多くの動きを経験できている。動きの頻度も高いものが増えている。(左図の青い部分が頻度の高い動き)
4、5歳児とも3学期には、頻度の高い動きに、つかむ・運ぶ・走る・投げる・ささえるなどが含まれた。また、5歳児は頻度の高い動きが増えている。

頻度チェック①　平成25年度

※東京学芸大学准教授　吉田伊津美先生の調査より

頻度チェック②　平成25年度



成　果

○幼児が進んで戸外に出たり、体を動かす遊びに積極的に参加したりする姿が増えた。(3つの視点)
○いろいろな動きに対して、抵抗なく取り組む幼児が増えた。(データ・3つの視点)
○活動の導入を工夫したり、発達に応じた目標をもたせたりすることで、幼児が進んで体を動かそうとする意欲が高まった。(データ・3つの視点)
○一年間のスパンで、多様な動きを経験できた。(データ)
○教師自身が、体の動きを意識して、活動を計画するようになった。(データ)
○多様な動きを経験するための遊び・活動内容を整理し、学年ごとに表にすることで、それを生かしながら年間の見通しをもった保育の計画を立てることができた。(一覧表の作成)
○幼児期に基本的な動きを発達段階にあわせて計画的に満遍なく経験することが大切であると改めて実感できた。

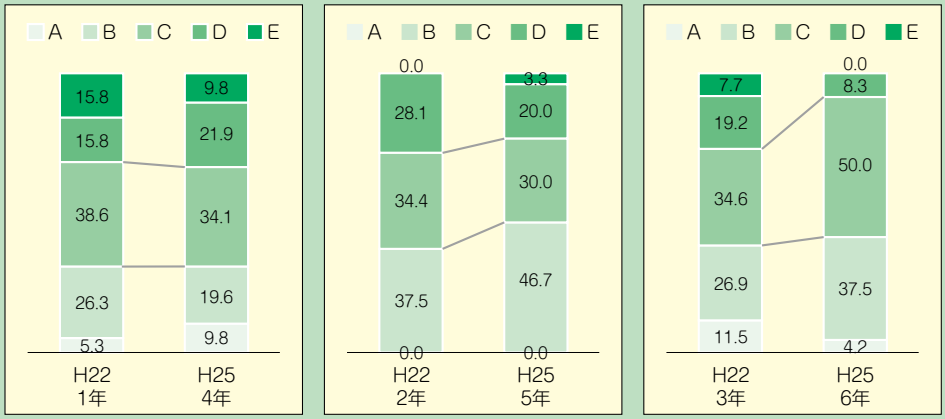
今後の課題

○園で取り組んでいる活動や、そこで経験していること(動き・気持ちの育ち等)について、保護者への伝え方をさらに工夫する。
○保護者自身が、経験が少なかったり、遊びを知らなかったりすることがあるため、園から家庭でできる遊びを積極的に発信していく。
○動きの種類としては経験できたものが多かったが、その中で変化をつけた動き(バリエーション)を経験できるように、より活動内容を工夫する。
○幼・小で不足している動きでかつ個人差の大きな動きを明らかにし、意図的に遊びに取り入れる工夫を重ねる。

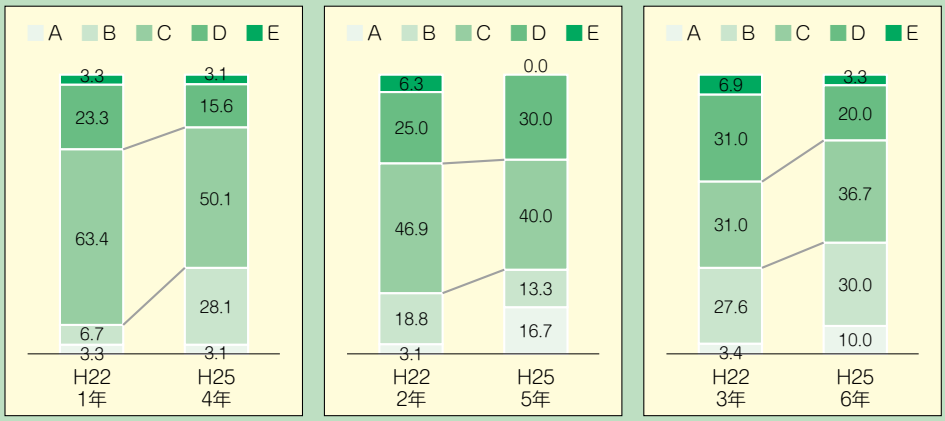
まとめ
小学校

データから見る成果と課題（健康教育）

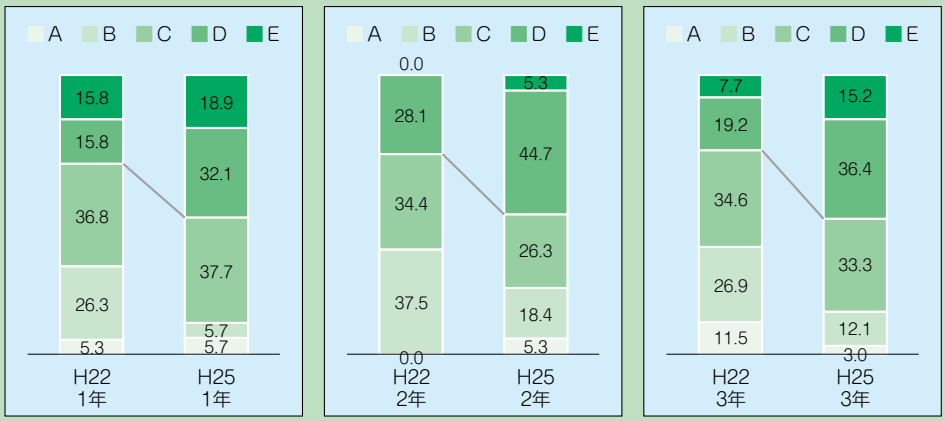
新体力テスト結果（総合評価人数割合）同一学年の3年間の変容（男子）　数字は%



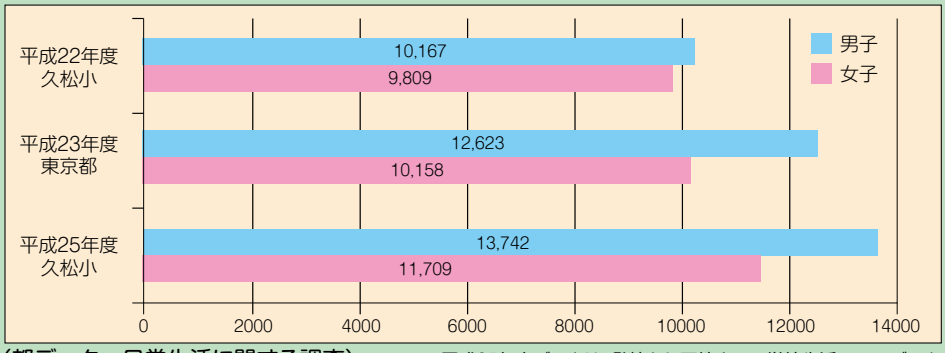
新体力テスト結果（総合評価人数割合）同一学年の3年間の変容（女子）



新体力テスト結果（総合評価人数割合）低学年男子の年次比較



1日の平均歩数



（都データ　日常生活に関する調査）　※平成25年度データは、登校から下校までの学校生活のみのデータ

（久松小データ　調査協力　東京学芸大学　吉田伊津美先生（H25）、桜美林大学　田中千晶先生（H22））

新体力テスト結果から

○左の上のグラフは、男子の新体力テスト結果（総合評価（A最上位～E）の人数の割合）について、同一学年の3年間の変化を示したものである。
傾向としてA・Bが少し増加し、D・Eが減少している。
同様に、左中の女子のグラフでも、似た傾向が見られる。
男女とも大きな変化とは言えないが、プラスの方向に変容していることがわかる。学年進行に伴い、総合評価のよい層が増加してきているのは、体育授業の充実や体を動かす機会の保障による成果のひとつと考える。

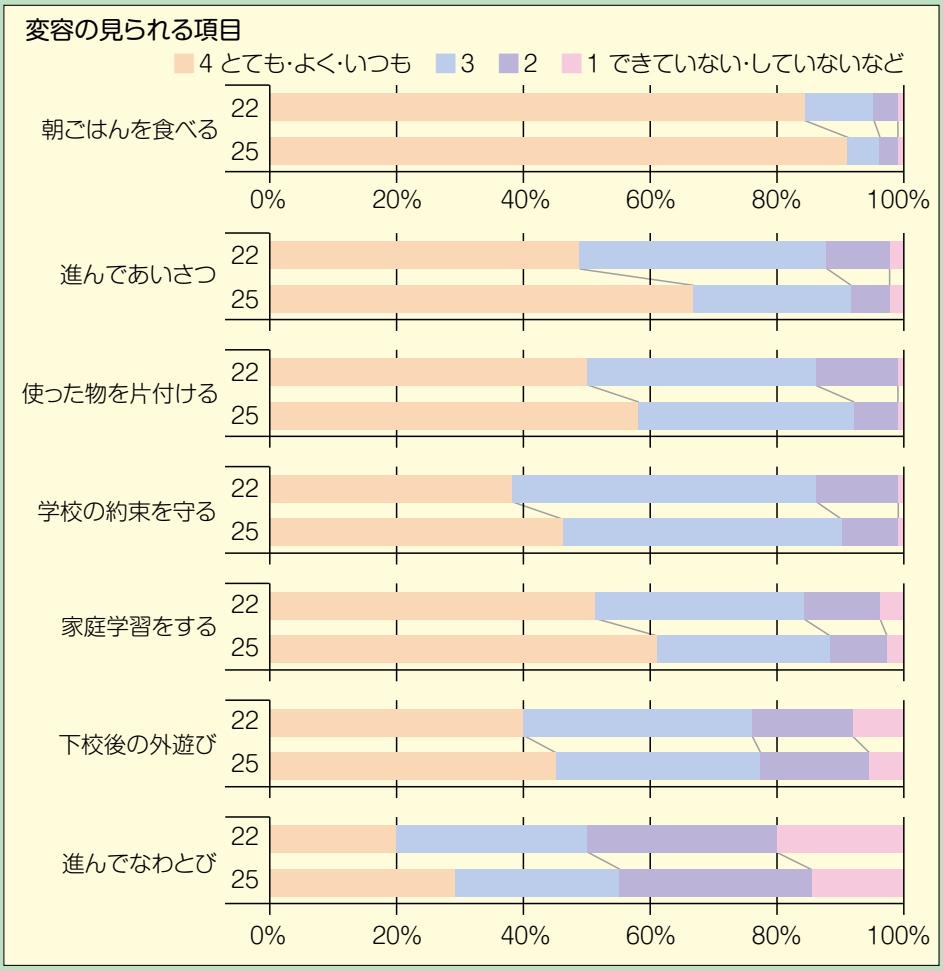
○一方、左下のグラフからは平成25年度の低学年について、平成22年度に比べ入学時にD・Eである児童が毎年増加傾向であることがわかる。
幼児期からの運動経験をどう積み重ねるか、入学後どのように指導すべきか、引き続き大きな課題である。

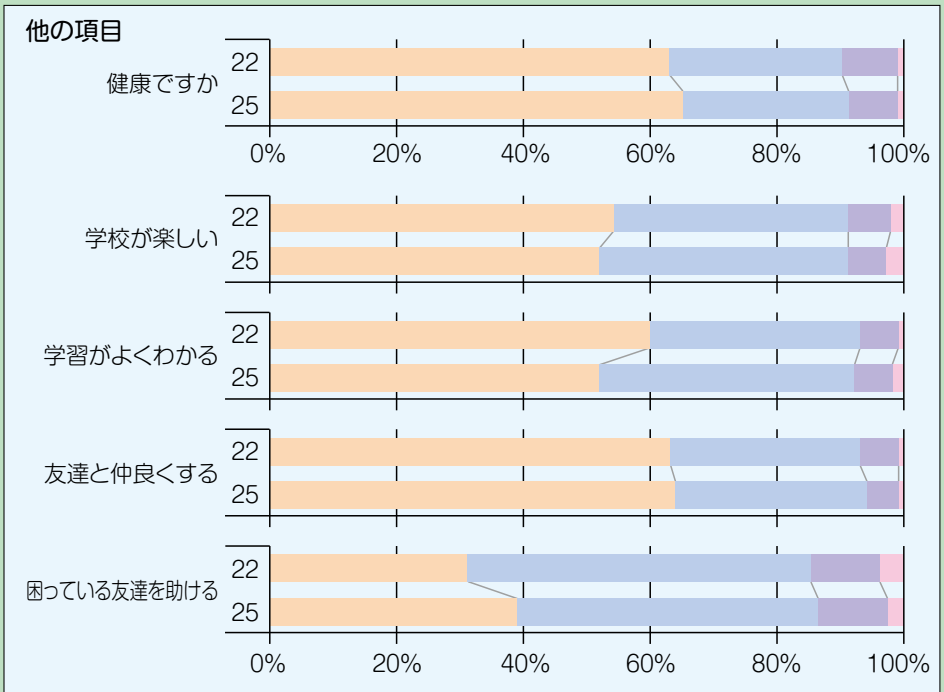
※平成26年度のデータ（速報値）は、25年度より大きく改善してきている。

1日の平均歩数調査から

○左のグラフは、久松小の平成22年度の1～6年生のデータ及び、平成25年度の同様のデータの比較である。
平成22年度調査後、休み時間の確保と、ロング放課後（1時間程度）の導入を行った。1日の平均歩数調査から、その成果が見える。（関連データ、P45右下）

児童生活アンケート結果から(3年間の変容抜粋平成22年度･25年度比較)





◎多くの項目で都の同様の調査の数値を上回っている。
◎課題　ここにあげた項目は、学校全体の傾向はほとんど変化はないが、低学年がこの3年間でやや下降している項目でもある。

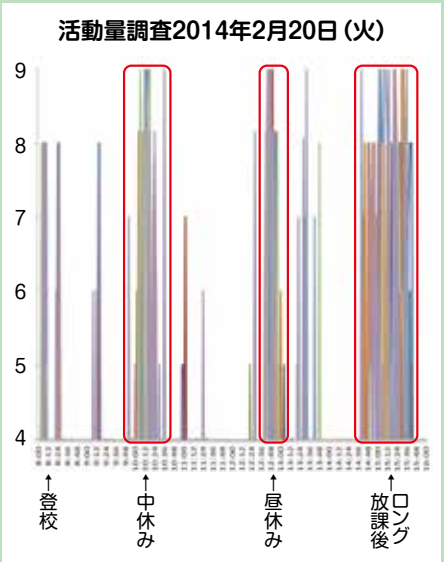
児童生活アンケート結果から

○左上のグラフは、平成22年度と25年度の児童への生活アンケートの比較である。
上のグラフは、多少変容の見られる項目をあげたものである。朝食･あいさつ･外遊び･なわとびなどに健康教育の継続による成果の一端が出てきている。

○一方、左下のグラフは同様のアンケート比較の中で全校集計では、あまり変容の見られない項目である。これらの項目については、新1年生で年々下降傾向であるのが課題である。幼児期からの「関わる力」を高め、連携していくことが引き続き課題である。

活動量調査から（在校中のみ）

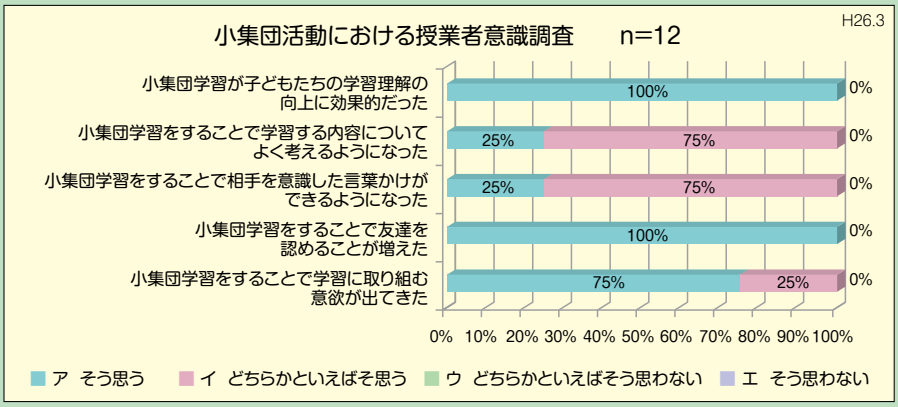
朝遊び、中休み、昼休み、そしてロング放課後に、よく体を動かして遊んでいることがわかる。（赤囲い）
（下のグラフは4～6の速歩レベルと7～9のジョギングレベルの強度のもの）

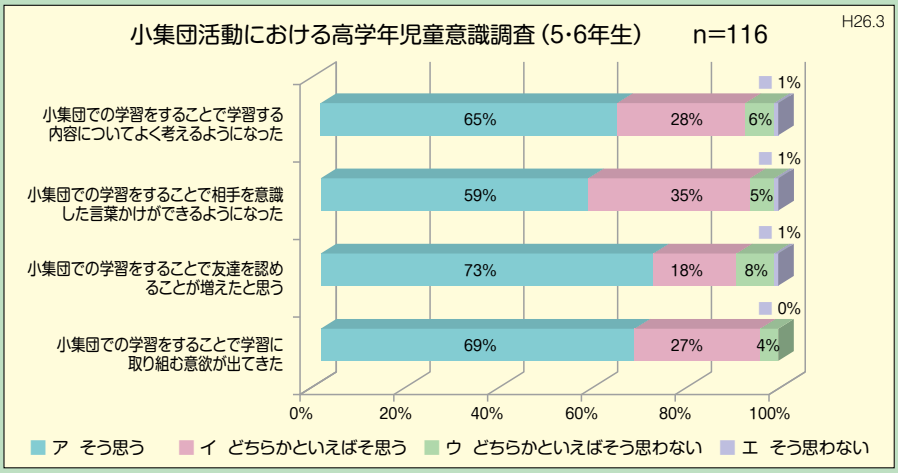


調査データ　東京学芸大学　吉田伊津美先生

まとめ
小学校

データから見る小集団活動導入の成果と課題



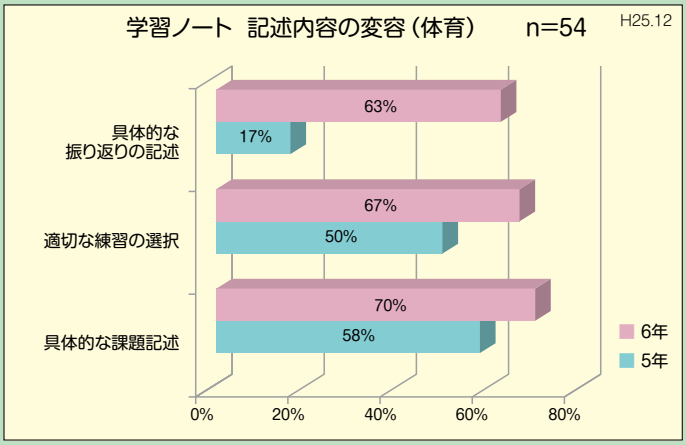


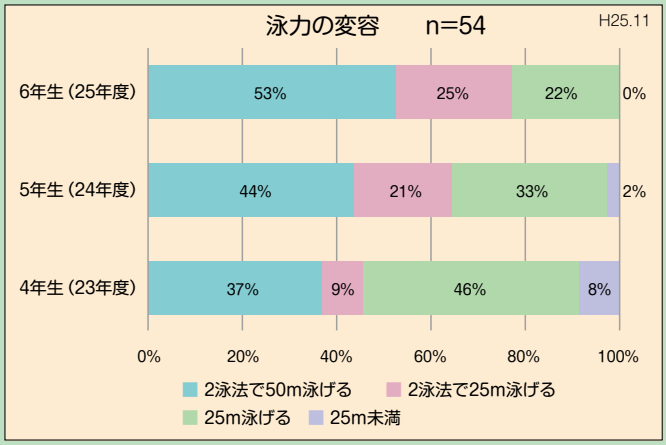
○左上のグラフからは、小集団活動を導入した授業者は概ねその成果を実感していると言える。今後どの教科等のどの場面で小集団活動を取り入れることにより効果的かを、実証していく必要がある。

○左中のグラフからは、児童の意識について小集団活動を経験してことで、相手を認めたり、意識したりすると同時に、思考や意欲についてもプラス効果があったことが伺える。

○左下のグラフからは、小集団活動の導入1年目の5年生と2年目の6年生の記述内容を比較することで、継続して取り組むことでより具体的な自己の課題やその解決方法などを把握できるようになってきていることがわかる。

○右下のグラフは、体育科･水泳の泳力の変容を示したものである。小集団活動の導入により多少運動量が少なくなるものの、泳力（技能）も着実に伸びていることがわかる。





成果

小集団活動により、相手意識をもったり、認め合ったりする児童が増えた。

全体の場で意見を発言することが苦手な児童も、小集団の中では、自分の意見を気軽に出し合ったり、質問し合ったりすることも可能となり、相互作用による集団思考が授業を活性化させ、児童一人一人の学習を深めていくことができ、学習意欲にも好影響を与えた。

また、言語活動の充実という視点でも有効であり、小集団活動を目的に応じて適切に取り入れることで、人間関係やコミュニケーション能力の育成が図られると同時に、学び合いや教え合い活動も活発になった。

課題

（1）目的をもって取り入れること

「何のために小集団活動を取り入れるのかを明確にして指導する。」

教科のねらいを達成するための手段としてふさわしいかどうかを考えることが重要。

（2）状況に応じ適切な指導を行うこと

小集団活動を行う前に活動内容やねらいを明確に示したり、各集団を観察して適宜アドバイスしたりするなど、教師は適切な指導を行う必要がある。

（3）他の学習形態と組み合わせること

「小集団活動を一斉学習や個別学習などを上手に組み合わせる。」

一斉学習や小集団学習の前に、個別学習の時間を取り、自分自身で考えたり、小集団活動の途中や一斉学習の後に振り返りをしたりすることが重要。

豊かな心と健やかな体の育成　まとめ

小

小集団活動による学び合い学習が充実・定着した（自分や仲間を大切にする意識が高まり、関わる姿が増えた）
→ 主体性・関わる力の育成、言語活動の充実（豊かな心）

体育・保健・給食を中心とした心と体の健康教育が充実した（心身の健康への意識が高まり、変化してきた）
→ 心と体の健康に関する自己管理能力の向上（豊かな心・健やかな体）

遊ぶ機会・体を動かす機会、関わる機会が拡充した（多様な関わりの中で体を動かす姿が増えた）
→ 主体性・関わる力の育成、健康・体力の増進（その基礎とを培う）（豊かな心・健やかな体）

幼

遊びの中で多様な動きを意欲的に経験できる保育が充実した（体を動かす遊びが好きになり、遊ぶ姿が増えた）
→ 主体性・関わる力の基礎、健康・体力増進の基礎（豊かな心・健やかな体）

○幼・小それぞれの取組の一層の充実・改善と全校活動で常に主題に迫ることは、今後も大きな課題

東京都教育委員会 オリンピック教育推進校（平成26年度・幼）

「できないことは、これから頑張るとできるようになること・諦めない心が大切」と話してくださいました。

元オリンピック水泳選手
萩原　智子さんと一緒に

オリンピック・パラリンピック教育全体計画（久松幼稚園）

世界で行われているスポーツや身近なスポーツなど、子どもたちが興味や関心をもつように進めています。

◎小学校も同様の計画のもと推進（P41）

久松 幼稚園 小学校 職員の声から

子どもを取り巻く大人の意識が変われば、子どもも大人も変わっていく。

小集団活動が面白くなってきた時、相手を深く理解しようとする子どもたちへ変わってきた。

久松しぐさは、自分を磨き、相手を思いやること。

友達と関わるから自分が伸びる。自分が伸びたから友達と関われる。そんな相互作用がこの活動のよさだ。

小集団活動で関わることの大切さを子どもが感じることを確認した。

幼・小を見通した指導を意識するようになった。

久松の多くの活動が研究主題につながっていると実感

心と体について幼児期の大切さを再認識した。

小集団活動を取り入れる時、話し合いの必然性を考えるよい機会となった。

体を動かすこと関わることの大切さを実感

相手に対し肯定的な関わりができるようになり、自己肯定感が高まった。

あ と が き

副校長　小林　浩二　　副園長　早川　幸

平成２５・２６年度と２年間にわたり区研究奨励校・園として研究主題「豊かな心と健やかな体の育成」を掲げ、日々の実践に努めてまいりました。研究を通して幼稚園では「多様な動きの経験」､小学校では「小集団活動」を主たる取組とし、幼小９年間の教育でじっくり積み重ね、心と体を育てることの大切さを学びました。

幼稚園では、体の動きを意識し、多様な動きが経験できる遊びや環境等を考え、整理し、見通しをもって活動を計画するようになりました。そして、積極的に戸外に出て体を動かして遊ぶことを楽しめる幼児が増えたことが大きな成果です。また、小学校では、毎日の教育活動を通してどう主題に迫るか、どう授業を改善するかを皆で日常的に考えるようになりました。そして、子どもたちが学校生活の中で自己肯定感をもったり、友達のよさを感じたり、認めたりする姿が多く見られるようになったことは大きな成果です。

研究を進めるにあたっては、多くの講師の皆様に幼児期からの運動経験の大切さや多様な関わりの中で子どもを育てることの重要さなどの御指導を賜り、本研究を一旦まとめることができました。このような研究の機会を与えてくださった中央区教育委員会教育長 齊藤　進様はじめ関係の皆様に、心より感謝申し上げますとともに厚く御礼申し上げます。

久松の木「松」と久松の花「マリーゴールド」

久松小学校のスクールカラー「緑」と久松幼稚園のスクールカラー「オレンジ」の美しいマリーゴールド
マリーゴールドの花言葉は「友情」「信頼」「健康」です。

御指導いただいた先生方（平成25･26年度）

文部科学省教科調査官　高田　彬成 先生
東海大学准教授　大越　正大 先生
社会福祉法人葛飾福祉館　運動保育士　堀内　亮輔 先生
山梨大学教授　中村　和彦 先生
東京学芸大学准教授　吉田伊津美 先生

（平成24年度）
日本体育大学教授　高橋　健夫 先生　筑波大学教授　椿本　昇三 先生　桐蔭横浜大学教授　松本格之祐 先生

中央区教育委員会（平成26年度）
指導室長　佐藤　太 先生　副 参 事　吉野　達雄 先生　統括指導主事　宮崎　宏明 先生
指導主事　丸山　順子 先生　指導主事　柄澤　武志 先生　指導主事　清水　浩和 先生
幼児教育担当専門幹　川越　裕子 先生

（平成25年度）
指導室長　増田　好範 先生　統括指導主事　伊藤　聡 先生　幼児教育担当専門幹　山口　晃司 先生

【研究に携わった教職員】　（平成26年度　◎研究主任　○研究推進委員）

校園長　酒井　寛昭　副校長　小林　浩二　副園長　早川　幸

小学校

１年	○南村　章子	醍醐いづみ
	○幸徳扶美子	
２年	菊池　佳子	○森田　慎
	黒岩まい子	
３年	○荒川　弘樹	○大沢　卓美
	鈴木可奈子	
４年	○佐藤　光昭	○伊藤　幸恵
５年	○杉田　高樹	◎中嶋　友晴
６年	○川島　幹雄	○水上美穂子
音楽	髙石　美佳	
図工	古舘　俊江	

算数少人数	越智　啓太	
養護	○上野　弘子	
非常勤教員	比毛　幸子	
算数少人数講師	伊藤　圭	
	井口　二郎	
体育指導補助員	山口　拓紀	
体育指導補助員	代田　朱里	
栄養士	片岡　奈津	
事務	安井　教晶	

幼稚園

年少	○田原　雅代	谷澤　千尋	
	阿部　真秀		
年中	梅本　理沙	○鈴木久仁子	
年長	村上　佳織	◎佐久間栄美	
保育補助	加藤　幸代	田邊　陽子	
	荒木　麻耶	阿部奈津代	
	高木　淳子	櫻井　美樹	
	乙訓　弘美		
安全担当補助	岩城　隆子	夏目　篤子	

（平成25年度）

小学校
森本　響子・伊丹　千帆・木原　千鶴・杉浦由美子・中満　美紀
山田　記央・黒川　悦子・遠藤　静枝・大西　真平

幼稚園
豊田　朋恵・田上　恵・江尻　恵子